

科目名		科目時間総数	教員名
衣生活論		30時間	猪内泰子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1 限	オリエンテーション 福祉実践における人と衣服の関わり	オリエンテーション 衣服の保健衛生上機能を理解する	
2 限	〃	衣服の身体防護機能を理解する 衣服の社会生活上の役割を理解する	
3 限	〃	服飾の起源を通して人と衣の関わりを学ぶ	
4 限	〃	衣服の基本形態を通して世界各地の風土文化を学ぶ	
5 限	福祉実践における衣服素材	繊維素材の種類・性能を理解する	
6 限	〃	素材加工について理解する	
7 限	〃	素材の最近の動向を理解する	
8 限	〃	布地構成の種類・しくみ・特徴を理解する	
9 限	〃	素材に応じた洗濯技法を習得する	
10 限	〃	衣服の管理方法を理解する	
11 限	福祉実践における衣服選	合理的な衣類購入について学ぶ	
12 限	〃	高齢者対応の衣服を理解する	
13 限	〃	障がい者対応の衣服を理解する	
14 限	福祉実践における医療事	既製衣料提供のしくみを理解する	
15 限	〃	衣生活と環境について理解する	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	食生活論	教員名	石川美穂
科目時間数 :	30時間	15限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実習
必修・選択の別 :	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 食生活の現状を把握し、健康に過ごすために、食品の栄養と特徴を学び、バランスのとれた食生活を送るための知識を習得する</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 食生活や家族の変化と現状、5大栄養素、食品群、食品の栄養的特徴と活用方法</p> <p>【授業における達成課題】 現在の食生活を把握し、これからの自分自身と家族がどのような食事をすればいいのか考える態度をもてるようにする</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	食生活論 フード&クッキング	近畿大学九州短期大学 実教出版	
教員参考用	生活学 調理と理論	実教出版 同文書院	
【使用教室】			
<p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室</p> <p>5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
【評価方法】			
<p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度</p> <p>5. 実技試験 6. その他 ()</p>			
【備考】			
評価について：レポートを合格すること。試験で60点以上を合格とする。			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
【内容】 栄養士としての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
食生活論		30時間	石川美穂
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1 限	食事について	自身の食事記録を作成し、どのような食事が望ましいかを考え答えることができる	
		"	
2 限		家族形態の変化と食生活の変化と女性の社会進出と家族の食事作りの影響について考え答え考察することができる	
		"	
3 限	食品群	食品群についての理解と活用方法について学ぶ。5大栄養素のはたらきについて説明することができる（炭水化物・脂質）	
		"	
4 限	栄養素について	5大栄養素のはたらきについて説明することができる（タンパク質・無機質・ビタミン）	
		"	
5 限		食品群摂取量の活用方法について学ぶ（三色食品群・四つの食品群・六つの食品群）	
		"	
6 限		植物性食品について、栄養的特徴と活用方法について説明することができる（穀類・いも類）	
		"	
限		植物性食品について、栄養的特徴と活用方法について説明することができる（豆類・野菜類・果実類）	
		"	
8 限		動物性食品について、栄養的特徴と活用方法について説明することができる（鳥獣肉類）	
		"	
9 限		動物性食品について、栄養的特徴と活用方法について説明することができる（魚介類）	
		"	
10 限		動物性食品について、栄養的特徴と活用方法についてせつめいすることができる（卵類）	
		"	
11 限		動物性食品について、栄養的特徴と活用方法について説明することができる（乳類）	
		"	
12 限	調味料・香辛料	調味料・香辛料の種類と特徴を学び、説明することができる	
		"	
13 限	加工品	特殊加工品の種類と特徴を学び説明することができる	
		"	
14 限	バランスのよい食事	バランスのよい食事について考え、献立作りについて学び実践できる	
		"	
15 限		バランスのよい食事について考え、献立作りについて学び実践できる	
		"	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	住居設計	教員名	山添 英順
科目時間数 :	30時間	15限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択	配当学年 :	2年次
		開講時期 :	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 住居の設計について、その基本的な知識を学び、住空間を計画する上での重要な事柄を知る。また、製図の知識の習得と、基本的な技術や表現について学ぶ。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・住居設計の知識（平面計画に必要な知識、間取りの考え方や動線計画、平面形と敷地との関係、設計に必要な住宅各室についての知識、住宅の構造、投影図法の理解と作図演習、住宅の主要図面の種類等） ・設計製図の基本技術（住宅の計画に必要な条件、図面表示の方法、計画の手順、演習等）</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目について、社会福祉専門職及び住生活の中で、それらに関わる様々な知識を習得し、それらを活かすことができる。</p>			
	使用教材	出版社	
	「住居設計」	近畿大学九州短期大学	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他（ ）	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験		6. その他（ ）	
【備考】			
評価について：レポート合格及び、科目終末試験において、60点以上を合格とする。			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
【内容】 建築設計士としての実務経験			

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	人間関係論	教員名	佐藤雅子
科目時間数 :	30時間	15限	授業の種類 :
必修・選択の別 :	<input checked="" type="radio"/> 必修・選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	<input checked="" type="radio"/> 前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校、職場、地域社会、国際社会など、様々な視点から人間関係をとらえることができるようになる。 ・歴史的経過や社会的状況に加え、人間の発達段階やコミュニケーションも含めた人間関係の構築について理解を深め、洞察力を身につける。 <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>人間関係に関する歴史的経過や、現在の社会的状況について講義しつつ、身近な人間関係を理解し深めるための心理学やコミュニケーションに関する補足を加える。また、関連した演習も一部取り入れる。</p> <p>【授業における達成課題】</p> <p>当該科目について、対人援助職として必要な知識と考察力を習得する。</p>			
	使用教材	出版社	
	人間関係論	近畿大学九州短期大学通信教育部	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】 上記を勘案して得点化し、A (80点以上)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満)、D (60点未満：不合格) の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無			
【内容】 社会福祉士としての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
人間関係論		30時間	佐藤雅子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	1. 現代における人間関係の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的存在としての人間 ・人間関係の諸局面 	
2限 3時間 4時間	4. 家庭における人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の形成、家族の変化 ・家庭をとりまく問題 ・良き家族とは ・家庭の役割 	
3限 5時間 6時間	2. 人間関係の構築と持続	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の選択と交際 ・人間関係を左右する要素 	
4限 7時間 8時間		<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係のより良き発展のために 【演習】 良いコミュニケーションとは 	
5限 9時間 10時間	3. 友人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・友人関係の諸形態 ・良き友人関係とは ・青年期における友人 	
6限 11時間 12時間	6. 職場での人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・職場とは ・日本的経営 ・仕事上の結びつき ・仕事を離れた付き合い 	
7限 13時間 14時間	5. 学校における人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・人間形成の場としての学校 ・学校の特徴 ・わが国の学校制度 ・学校の問題点 	
8限 15時間 16時間		<ul style="list-style-type: none"> ・良き人間関係の構築における学校の役割 ・教師と生徒、生徒同士の関係 ・生徒たちの求める仲間 	
9限 17時間 18時間		<ul style="list-style-type: none"> 【演習】 学校における人間関係の課題 (不登校やひきこもりの問題の分析) 	
10限 19時間 20時間	7. 地域社会での人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会での人間関係 ・地域社会の変容と人間関係 ・地域社会の活性化のために 	
11限 21時間 22時間	8. 国際化・情報化時代における人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・国民としての自覚 	
12限 23時間 24時間	心理学的視点からみた人間関係	心理学的視点からみた人間関係	
13限 25時間 26時間		<ul style="list-style-type: none"> 【演習】 アドラー心理学の育児と教育 横の関係と健康なパーソナリティ 	
14限 27時間 28時間		<ul style="list-style-type: none"> 【演習】 自己受容、他者貢献、他者信頼、共同体意識 	
15限 29時間 30時間	まとめ	授業の振り返りとまとめ	

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	介護保険事務概論	教員名	菊池 要子
科目時間数 :	15時間	7.5限	授業の種類 : (講義) ・ (演習) ・ 実習
必修・選択の別 :	(必修) ・ 選択	配当学年 :	2
		開講時期 :	前期・後期・(集中)
<p>【授業の目的・ねらい】 ①介護保険制度を理解し、できるだけ在宅生活を継続するための相談援助ができる。 ②地域住民の生活課題をアセスメントでき、課題解決のための技術を身につける事ができる。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ①介護保険制度を理解する。 ②インフォーマルサービスを理解する。 ③介護給付費算定の仕方を学ぶ。</p> <p>【授業における達成課題】 地域共生社会の実現に向けて、複合化・複雑化した課題を受けとめる包括的な相談支援ができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生・教員用	ケアマネージャー・ケアクラークのための介護サービスコード表	CAPS	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
評価について：出席率100%、筆記試験60点以上で単位認定			
A(80点以上) B (79～70点) C (69～60点) D (59点以下) の4段階で評価する			
【担当教員の実務経験の有無】			
(有) ・ 無			
【内容】			
看護師・介護支援専門員・認知症介護指導員			

科目名		科目時間総数	教員名
介護保険事務概論		15時間 7.5限	菊池要子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	介護保険制度の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・介護保険制度の基礎知識 	
2限 3時間 4時間	介護保険制度の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護サービス ①訪問介護 ②通所介護 ③居宅介護支援事業所 	
3限 5時間 6時間	介護保険制度の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ④グループホーム ⑤小規模多機能居宅介護 	
4限 7時間 8時間	介護保険制度の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・医療系在宅サービス ①訪問看護 ②通所リハビリテーション ③訪問リハビリ 	
5限 9時間 10時間	介護保険制度の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険3施設サービス 	
6限 11時間 12時間	介護保険制度の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・加算要件 	
7限 13時間 14時間	介護報酬の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・介護報酬の算定構造 ・介護報酬請求 	
7.5限 15時間	介護保険外サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルサービスを考える 	

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	介護保険事務演習	教員名	菊池 要子
科目時間数 :	15時間 7.5限	授業の種類 :	<input type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ <input type="checkbox"/> 実習
必修・選択の別 :	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ <input type="checkbox"/> 選択	配当学年 :	2
		開講時期 :	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 ①介護保険制度を理解し、できるだけ在宅生活を継続するための相談援助ができる。 ②地域住民の生活課題をアセスメントでき、課題解決のための技術を身につける事ができる。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ①介護給付費算定の仕方を学ぶ。 ②演習によりアセスメント方法やコーチング技法を学ぶ。</p> <p>【授業における達成課題】 地域共生社会の実現に向けて、複合化・複雑化した課題を受けとめる包括的な相談支援ができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生・教員用	ケアマネージャー・ケアクラークのための介護サービスコード表	CAPS	
【使用教室】			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 筆記試験	2. レポート	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
評価について：出席率100%、筆記試験60点以上で単位認定			
A(80点以上) B(79～70点) C(69～60点) D(59点以下) の4段階で評価する			
【担当教員の実務経験の有無】			
<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無			
【内容】			
看護師・介護支援専門員・認知症介護指導員			

科目名 介護保険事務演習		科目時間総数 15時間 7.5限	教員名 菊池要子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	介護保険外サービス	・インフォーマルサービスを考える	
2限 3時間 4時間	介護保険サービスを組み立てる	・施設事例から、サービス計画書・利用票・別表を作成する	
3限 5時間 6時間	介護報酬請求の演習	・施設事例を介護報酬請求する。	
4限 7時間 8時間	介護保険サービスを組み立てる	・在宅サービス事例から、サービス計画・利用票・別表を作成する	
5限 9時間 10時間	介護報酬請求の演習	・在宅サービス事例を介護報酬請求する。	
6限 11時間 12時間	介護報酬請求の演習	・介護報酬請求の演習	
7限 13時間 14時間	多職種連携	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携 ・サービス担当者会議の演習 	
7.5限 15時間	まとめ	・地域共生社会を構築してみよう	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 医療福祉事務総論	教員名 中村和歌子
科目時間数 : 30時間 (15限)	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 : 2年 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般医学の基礎知識を学ぶ ・ 一般的な疾病について学ぶ ・ 医療事務に携わる者に必要な医療施設について学ぶ <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般医学の基本となる知識 ・ 一般的な疾病の基礎知識 ・ 医療施設について学ぶ <p>【授業における達成課題】</p> <p>社会福祉専門職として福祉実践に必要な知識を習得し他職種との連携を図ることができる</p>	
	使用教材
学生・教員	最新・社会福祉士養成講座 医学概論
	出版社
	中央法規出版
【使用教室】	
<input checked="" type="checkbox"/> 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 <input checked="" type="checkbox"/> 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()	
【評価方法】	
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 筆記試験 2. <input checked="" type="checkbox"/> レポート 3. <input checked="" type="checkbox"/> 出席 4. 授業態度 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 実技試験 6. その他 ()	
【備考】	
評価について：レポートは合格すること。筆記試験は60点以上を合格とする。	
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	
【内容】 病院での実務経験有り	

科目名		科目時間総数	教員名
医療福祉事務総論		30時間 15限	中村和歌子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限	1時間	オリエンテーション	
	2時間	身体の構造と心身機能を理解 医学に関する知識 疾病の発症原因と成立機序を理解	
2限	3時間	消化器の構造と機能を理解	
	4時間	消化器疾患の理解	
3限	5時間	循環器の構造と機能を理解	
	6時間	心臓・血管・血液の流れのしくみと理解	
4限	7時間	血液の流れのしくみと呼吸器系との関連の理解	
	8時間	血圧・心疾患の理解	
5限	9時間	呼吸器の構造と機能を理解	
	10時間	口腔・鼻腔・気管・肺・呼吸器疾患の理解	
6限	11時間	レポート対策	
	12時間	レポート対策	
7限	13時間	血液について理解（貧血等）、炎症について理解	
	14時間	血液・免疫・アレルギー疾患、感染症の理解	
8限	15時間	泌尿器系・生殖器系の構造と機能を理解	
	16時間	腎・泌尿器・生殖器の疾患の理解	
9限	17時間	脳・神経の理解 脳血管疾患の理解	
	18時間	精神疾患の理解	
10限	19時間	発育について理解（胎児について理解）	
	20時間	癌について理解、難病の理解	
11限	21時間	テスト対策	
	22時間	テスト対策	
12限	23時間	内分泌器官の理解	
	24時間	内分泌・代謝疾患の理解	
13限	25時間	感覚器について理解。目・耳・皮膚について理解	
	26時間	骨格系、筋系の理解と骨・関節の疾患について理解	
14限	27時間	高齢者に多い疾患について理解	
	28時間	生活習慣病について理解	
15限	29時間	グループワーク	
	30時間	まとめ	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 コミュニティワーク演習 I	教員名 佐藤雅子	
科目時間数 : 30時間 (15限)	授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 2年 開講時期 : 前期・後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 学生同士が協力し、多様な方法でコミュニティを調査し、理解し、その課題を分析できる力を養う。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 行政計画のデータの解析、行政資料の要約、アンケート調査の実施、我が町調査シートの作成など、コミュニティを理解するための多様な方法を取り入れて授業を進める。 ※3年次の「コミュニティワーク演習Ⅱ」「ソーシャルワーク実習指導」へのつながりを意識する。</p> <p>【授業における達成課題】 ・行政計画・資料等の基礎データから、地域の状況や課題を説明することができる。 ・他学科、学年への量的調査を通じて、アンケート調査票の作成、集計、分析という一連の流れに協力して取り組める。</p>		
	使用教材	出版社
	教員準備教材を使用	
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>		
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>		
<p>【備考】</p> <p>評価について：授業態度、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>		
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p>		
<p>【内容】 社会福祉士としての実務経験</p>		

科目名		科目時間総数	教員名
コミュニティワーク演習Ⅰ		30時間	佐藤雅子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	授業の目的、概要を理解する。 授業のスケジュールを確認し、作業分担を行う。	
2限 3時間 4時間	数字で見る地域	【講義】「岩手県地域福祉支援計画」の基礎データ	
3限 5時間 6時間		【演習】基礎データ解析作業 ・老人福祉計画「いわていきいきプラン」 ・障害者計画「岩手県障がい者プラン」 ・子ども・子育て支援事業計画「いわて子どもプラン」	
4限 7時間 8時間			
5限 9時間 10時		【演習】「国民生活白書」要約作業 ・家族のつながり ・地域のつながり ・職場のつながり	
6限 11時 12時	家族・地域・職場のつながり		
7限 13時 14時	地域のつながりに関する意識調査①	【講義・演習】「地域のつながりに関する意識調査」の実施 ・テーマ設定 ・調査票の作成 ・作業分担 →他学科、他学年へのアンケート実施	
8限 15時 16時			
9限 17時 18時	我が町調査	【講義・演習】「我が町調査」の実施 ・自分の生活する地域を調べる。 ・調査シートを記入する。 (人口、気候の特徴、地理的特徴、産業の特徴、地域の課題、解決策)	
10限 19時 20時			
11限 21時 22時	地域のつながりに関する意識調査②	【演習】「地域のつながりに関する意識調査」 ・集計作業	
12限 23時 24時			
13限 25時 26時		・分析作業	
14限 27時 28時間	成果報告会①	「地域のつながりに関する意識調査」報告 →意見交換	
15限 29時 30時	成果報告会②	「我が町調査」報告 →意見交換	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	基礎演習	教員名	高橋洋子
科目時間数：	30時間 (15限)	授業の種類：	(講義) ・ (演習) ・ 実習
必修・選択の別：	(必修) ・ 選択	配当学年：	3年
		開講時期：	前期 ・ (後期) ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 大規模災害で求められるソーシャルワークは災害のフェーズごとに変化していくこと、復興や被災者の自立は長期的な視点に立つ必要がある事を理解し、演習を通して実践的な災害支援ソーシャルワークを学ぶ。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 平成23年東日本大震災や平成28年台風10号災害などの実際の過去の災害をベースとして、演習を中心に授業を進める。コミュニティソーシャルワークの視点で、個別支援や地域支援についてロールプレイや模擬企画会議などを取り入れ実施する。</p> <p>【授業における達成課題】 ・被災者の置かれている状況を理解し我が事として説明することが出来る。 ・被災者の潜在的ニーズをキャッチするためのアプローチについて体験できる。 ・課題解決のための実践（事業）を企画立案し説明することができる。</p>			
	使用教材	出版社	
	教員オリジナル教材を使用		
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
授業態度30% 出席率30% レポート40%			
【備考】			
評価について：授業態度、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無			

科目名		科目時間総数	教員名
基礎演習		30時間 (15限)	高橋洋子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	被災者理解と災害支援の視点	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災での支援事例から被災者支援の視点を学ぶ 	
2限 3時間 4時間		<ul style="list-style-type: none"> 災害フェーズにおける被災者の生活状況の変化（避難所⇒仮設住宅⇒災害公営住宅）を理解する 各フェーズにおける被災者のニーズを予測することができる 	
3限 5時間 6時間	災害ボランティアセンターの設置・運営	【ワーク①】 災害ボランティアセンターの設置 ～平成28年台風10号災害の被災地をモデルに～	
4限 7時間 8時間		<ul style="list-style-type: none"> ●災害発生時における地域アセスメントの方法を理解する。 ・KJ法を用いたグループワーク（人・物・情報）での整理 ・発表 	
5限 9時間 10時間			
6限 11時間 12時間	被災者の支援	【ワーク②】 被災者の支援（個別支援） <ul style="list-style-type: none"> ●生活支援相談員業務の演習を通して、対人援助技術の習得と、 	
7限 13時間 14時間		様々な状況に置かれている被災者へのアプローチに必要なスキルを養うことができる。（仮設住宅）	
8限 15時間 16時間		<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチの方法（安否確認と課題の発見） ・課題を抱える人（認知症高齢者、閉じこもり、アルコール依存など）へのアプローチについてロールプレイ 	
9限 17時間 18時間			
10限 19時間 20時間		【ワーク③】被災者の支援(コミュニティソーシャルワークの視点) <ul style="list-style-type: none"> ●生活支援相談員業務の演習を通して、個別課題や地域課題解決に向け 	
11限 21時間 22時間		た取り組みについて企画立案することができる。	
12限 23時間 24時間	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の抽出 ・個別課題を地域課題へと普遍化 ・課題解決のための企画立案(企画会議の演習) ・発表 		
13限 25時間 26時間	ボランティアへの対応 まとめ	【ワーク④】 ボランティアへのオリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアに対して被災者の状況や思いを説明・代弁できる 	
14限 27時間 28時間		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター設置運営マニュアルの確認 ・ボランティアの役割 ・説明事項の整理、原稿の作成 	
15限 29時間 30時間		<ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・全体の振り返りとまとめ 	

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	コミュニティワーク 演習Ⅱ	教員名	大富和弘 佐藤雅子
科目時間数 :	100時間	50限	授業の種類 :
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	3年
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の構成要素について理解する。 ・地域をアセスメントするのに必要な調査技術等を体得する。 ・地域の状況を客観的に捉え、地域課題や地域実践に関わるテーマを設定し、仮説を立て、調査により検証し、結果を考察することを通して、調査研究のプロセスを理解する。 ・地域調査という方法を用いてコミュニティソーシャルワークの下地作りができる能力を涵養する。 <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における生活課題の理解 ・調査地域の設定とテーマ検討 ・調査方法の理解 ・調査計画の作成（テーマ、仮説、調査時期、調査方法、結果分析、資料作成、実施体制） ・対象地域の事前学習、先行研究・文献検討 ・地域関係者への協力依頼 ・事前準備（質問票作成等） ・地域での調査実施 ・調査結果の分析、資料作成 ・調査結果発表会および全体のふりかえり <p>【授業における達成課題】</p> <p>当該科目について、社会福祉士として必要な知識・技術・価値を習得する。</p>			
	使用教材		出版社
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（発表資料の内容によるグループごとの評価）</p>			
<p>【備考】 上記を勘案して得点化し、A（80点以上）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満：不合格）の4段階で評価する。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p>			

科目名		科目時間総数	教員名
コミュニティワーク演習Ⅱ		100時間	大富和弘、佐藤雅子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	地域に存在する様々な生活課題を理解し、調査テーマを検討することができる。	
2限 3時間 4時間	地域調査の必要性	地域調査がどのような形式で行われているか、なぜ調査が必要なのかを説明できる。	
3限 5時間 6時間			
4限 7時間 8時間	調査方法の理解	量的調査および質的調査の具体的な方法について説明できる。	
5限 9時間 10時間	調査研究のプロセスの理解	研究テーマ設定、テーマの背景となる状況、先行研究検討、調査対象および調査方法設定、調査時期設定、協力依頼、調査実施、結果分析、資料作成といった一連のプロセスを説明できる。	
6限 11時間 12時間			
7限 13時間 14時間	調査テーマの設定と調査計画の策定	調査地域ごとのグループに分かれて調査テーマを設定し、調査計画を策定できる。	
8限 15時間 16時間	調査テーマに関わる先行調査検討	調査テーマに関連する先行調査や文献を検討し、テーマの背景や参考にする先行調査を明確にできる。	
9限 17時間 18時間			
10限 19時間 20時間			
21時間			
11限 22時間			
12限 23時間 24時間	一次調査事前準備および調査協力依頼	本調査（二次調査）を行うにあたって必要な情報収集としての一次調査に必要な準備を行える。また、一次調査に協力してもらう方々への依頼と調査の日程調整等も行う。	
13限 25時間 26時間			
14限 27時間 28時間			
15限 29時間 30時間			

科目名		科目時間総数	教員名
コミュニティワーク演習Ⅱ		100時間	大富和弘、佐藤雅子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
16 31時間 32時間	一次調査の実施	本調査（二次調査）を行うにあたって必要な情報収集を対象地域で実施する。	
17 33時間 34時間	一次調査結果分析	一次調査の結果を資料化できる。本調査（二次調査）の内容を作っていくうえでグループ内での検討材料とする。	
18 35時間 36時間			
19 37時間 38時間			
20 39時間 40時間			
21 41時間 42時間			
22 43時間 44時間			
23 45時間 46時間	本調査（二次調査）に向けた先行文献検討および情報収集	調査要素を具体的に設定し、それらを調査するにあたっての適切な手段を検討するために、先行文献とその他の必要と思われる情報を収集できる。	
24 47時間 48時間			
25 49時間 50時間			
26 51時間 52時間			
27 53時間 54時間			
28 55時間 56時間			
29 57時間 58時間			
30 59時間 60時間			

科目名		科目時間総数	教員名
コミュニティワーク演習Ⅱ		100時間	50限
教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標	
31	61時間 62時間	本調査（二次調査）	対象地域において本調査（二次調査）を行う。 （調査要素に関連する場所や場面の見学・観察、関係者からのヒアリング、調査票の配布または回収等）
32	63時間 64時間		
33	65時間 66時間		
34	67時間 68時間		
35	69時間 70時間		
36	71時間 72時間	調査結果の分析と考察	調査した結果を分析し（集計表やグラフの作成、ヒアリング記録と要約の作成、クロス集計やカテゴリー分類などの2次的作業等）、そこから自分たちが設定した調査テーマや仮説に照らしての考察ができる。
37	73時間 74時間		
38	75時間 76時間		
39	77時間 78時間		
40	79時間 80時間		
41	81時間 82時間	発表資料作成	発表会に向けて調査結果および分析と考察内容をパワーポイントや配布資料として作成できる。
42	83時間 84時間		
43	85時間 86時間		
44	87時間 88時間		
45	89時間 90時間		
46	91時間 92時間		
47	93時間 94時間		
48	95時間 96時間		
49	97時間 98時間		
50	99時間 100時間		
発表会			

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	心理学理論と心理的支援	教員名	會津真子
科目時間数 :	30時間 (15限)	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	3
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 人間は発達段階を通して様々なコミュニケーションのもとに人間関係を構築する。また、その過程で障害を負ったり、心理的な負担が生じたときには、自己を守る防衛機制が作動し、ネガティブな人間関係に直結する場合も見受けられる。特に介護福祉士は、障害児から高齢者まで幅広くケアを実践する専門職のため、各発達段階の特徴を理解し、発達段階に応じた適切なコミュニケーションを図っていくことが求められる。本講義では発達心理学の観点から、コミュニケーションと人間関係の関連性を学んでいく。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 エリクソンのIdentity&Life cycle理論をもとに、各発達段階の課題の理解を通してコミュニケーションや関わり方の基礎を学ぶ。また、A. フロイドの心理防衛機制を学ぶことで、福祉サービス利用者の心理を理解する。</p> <p>【授業における達成課題】 ・障害を持つ人が日常生活で抱える困りごとを、より深い視点で捉えることができる。 ・当事者たちの歩みを知ることで、障害者と権利の関係性について理解を深める。</p>			
	使用教材	出版社	
	心理学理論と心理的支援	中央法規	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 (グループワーク)		
【備考】			
評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA (80点以上)、B (79～70点) C (69点～60点)、D (59点以下) の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無			
【内容】 医療機関等におけるカウンセラーの実務経験あり			

科目名		心理学理論と心理的支援	科目時間総数	30時間	15限	教員名	會津真子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標				
1限	1時間 2時間	ガイダンス・オリエンテーション	人間関係とコミュニケーションの方向性や目的を確認する				
2限	3時間 4時間	人間関係と発達	各発達理論と人間の成長				
3限	5時間 6時間	人間関係と発達（2）	エリクソンの社会心理発達理論				
4限	7時間 8時間	防衛機制とコミュニケーション	自我防衛機制とフロイドの発達理論を理解できる				
5限	9時間 10時間	乳幼児期の発達とコミュニケーション	乳幼児期の発達課題とコミュニケーションの関連性を理解できる				
6限	11時間 12時間	児童期・学童期の発達とコミュニケーション	児童期・学童期における発達課題及び、好発される発達障害について理解できる				
7限	13時間 14時間	乳幼児期の発達とコミュニケーション	乳幼児期の発達課題とコミュニケーションの関連性を理解できる				
8限	15時間 16時間	青年期の発達とコミュニケーション	アイデンティティの確立やモラトリアム型について理解を深め、青年期の危機を乗り越えるための発達課題を理解する				
9限	17時間 18時間	成人期・壮年期の発達とコミュニケーション	青年期や壮年期の発達課題を理解し、高齢期を安定して迎えるために必要なライフタスクを学ぶ				
10限	19時間 20時間	身体障害の心理とコミュニケーション	身体障害を持つことのボディ・イメージの再構築の重要性を理解できる				
11限	21時間 22時間	青年期の発達とコミュニケーション	アイデンティティの確立やモラトリアム型について理解を深め、青年期の危機を乗り越えるための発達課題を理解する				
12限	23時間 24時間	知的・発達障害の心理とコミュニケーション	知的障害の分類を理解し、障害別に応じたコミュニケーションの手法を理解できる				
13限	25時間 26時間	精神障害の心理とコミュニケーション	精神疾患の分類を理解し、こころの構造を学ぶとともに薬物療法や認知行動療法の重要性を理解する。				
14限	27時間 28時間	コミュニケーション概論	コミュニケーションにおける相互作用について理解できる。				
15限	29時間 30時間	防衛機制	クライアントの心理防衛機制について理解できる。				

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	地域福祉と包括的支援体制	教員名	大冨和弘
科目時間数 :	60時間 (30限)	授業の種類 :	(講義) ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	(必修) ・ 選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	(前期) ・ (後期) ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉の基本的考え方について理解する。 ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。 ・ 地域福祉に係る組織、団体および専門職の役割について理解する。 ・ 地域福祉におけるネットワークの意義と方法及びその実際について理解する。 ・ 地域福祉の推進方法について理解する。 <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉の基本的考え方 ・ 地域福祉の主体と対象 ・ 地域福祉に係る組織、団体および専門職や地域住民 ・ 地域福祉の推進方法 <p>【授業における達成課題】</p> <p>当該科目について、社会福祉士として必要な知識を習得する。</p>			
	使用教材	出版社	
新社会福祉士養成講座	地域福祉の理論と方法	中央法規出版	
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>			
<p>【備考】 上記を勘案して得点化し、A (80点以上)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満)、D (60点未満：不合格) の4段階で評価する。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無</p>			
<p>【内容】 社会福祉士としての実務経験</p>			

科目名		科目時間総数	教員名
地域福祉と包括的支援体制		60時間	大富和弘
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間	オリエンテーション	地域福祉の概要と位置づけについて	
2限 2時間	新しい社会福祉システム	地域福祉の発展過程、欧米や日本における地域福祉の発展過程を理解する	
3限 3時間		社会福祉の基礎構造改革の重要性と地域福祉の推進との関りを学ぶ	
4限 4時間		少子高齢化社会と地域福祉のあり方を理解する	
5限 5時間		地域福祉の新しい役割、行政と住民の協働について学ぶ	
6限 6時間		地域福祉の構成要素、地域福祉推進の原理を理解する	
7限 7時間	地域福祉の基本的な考え方	地域福祉に関する理論的な発展の経過を知る	
8限 8時間		地域自立生活支援と地域福祉の理念について理解する	
9限 9時間		地域の捉え方と福祉圏域設定の考え方を理解する	
10限 10時間	地域福祉の主体と福祉教育	地域福祉の推進における福祉教育の重要性を学ぶ	
11限 11時間		福祉教育の概念と内容について理解する	
12限 12時間	行政組織と民間組織の役割と実際	地方分権化地域福祉計画の内容と課題を理解する	
13限 13時間		社会福祉協議会、社会福祉法人の役割を学ぶ	
14限 14時間		NPO法人、民生委員等の役割について学ぶ	
15限 15時間	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割	コミュニティソーシャルワークの考え方、概念、課題についての理解する	
16限 16時間		サービスとニーズの接近性を高めるシステムと、専門職の配置、役割について学ぶ	
17限 17時間		コミュニティソーシャルワークの基本的な展開プロセスを理解する	
18限 18時間		地域アセスメント、ケアマネジメント、サポートネットワークによる具体的な支援体制の構築についての理解	
19限 19時間		専門多職種によるチームアプローチによる協働体制、住民・利用者とのパートナーシップについての理解	
20限 20時間		住民と街づくりを支えるコミュニティソーシャルワーカーの役割を学ぶ	
21限 21時間		前期のまとめ	
22限 22時間	住民の参加と方法	地域福祉推進における住民参加の意義と役割を理解する	
23限 23時間		市町村社会福祉行政における住民参加の方法、参加の形態、参加のレベルについて学ぶ	
24限 24時間	ソーシャルサポートネットワーク	ソーシャルサポートネットワークの考え方について学ぶ	
25限 25時間		ソーシャルサポートの多面性とコミュニティソーシャルワーカーの役割について理解する	
26限 26時間	地域における社会資源の活用・調整・開発	フォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源の理解	
27限 27時間		社会資源の内容や特徴について学ぶ	
28限 28時間		社会資源の活用とコーディネート意義、方法等について学ぶ	
29限 29時間		社会資源としての福祉サービスの開発、サービス供給組織の開発	
30限 30時間		街づくりとソーシャルアクションの理解	

20限	39時間	地域福祉演習	班に分かれて盛岡市街地での地域活動案の企画	
	40時間		地域活動対象地区の実地調査	
21限	41時間		地域における福祉ニーズの把握方法と実際	
	42時間			
22限	43時間			調査結果を踏まえて、地域活動のアイデアに関する資料作成
	44時間			
23限	45時間			
	46時間	班ごとに地域活動案の発表		
24限	47時間	地域における福祉ニーズの把握方法と実際	福祉ニーズ把握の視点、留意点を学ぶ	
	48時間		アウトリーチの意義について学ぶ	
			質的、量的な福祉ニーズの把握方法について学ぶ	
25限	49時間	地域トータルケアシステムの構築と実際	地域トータルケアシステムの必要性と課題について学ぶ	
	50時間		福祉の連携の重要性を理解する	
26限			51時間	地域トータルケアシステムの事例を学ぶ
	52時間		ソーシャルケア従事者の研修と組織化について学ぶ	
27限	53時間	地域における福祉サービスの評価方法と実際	評価を必要とする背景を学ぶ	
	54時間		サービス提供者とサービス利用者にとっての評価の意義、評価システムの必要性を学ぶ	
28限			55時間	サービス評価の概要と評価の方法を学ぶ
	56時間		福祉サービスのプログラム評価とその展開を理解する	
29限	57時間	海外の地域福祉	イギリス、アメリカのソーシャルワークの特徴と展開	
	58時間		後期のまとめ・レポート提出	
30限	59時間			
	60時間			

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	障害者福祉	教員名	竹内愛美
科目時間数 :	30時間 (15限)	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	必修 ・ 選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	前期 ・ 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 ①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。②障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について理解する。③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ①テキスト及び視聴覚教材を用いた講義 ②ソーシャルワークを用いた障害者に対する支援のあり方についてのワーク</p> <p>【授業における達成課題】 障害者福祉の発展過程を踏まえた障害者や家族の生きづらさの理解を深めながら、法制度の理解とフォーマル・インフォーマルな社会資源の在り方と、支援のネットワークの必要性について理解を深める</p>			
	使用教材	出版社	
	障害者福祉	中央法規出版	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
評価について：筆記試験、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内容】 福祉施設での実務経験有り			

科目名		科目時間総数	教員名
障害者福祉		30時間	竹内愛美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限 1時間 2時間	障害概念と特性	国際生活機能分類（ICIDHからICFへ、ICFの構造）	
2限 3時間 4時間	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境	障害者の生活実態（地域移行・居住・修学、就労・高齢化・介護需要・障害者の芸術、スポーツ）	
3限 5時間 6時間		障害者を取り巻く社会環境（バリアフリー・コンフリクト・障害者虐待・親なき後問題、きょうだいへの支援）	
4限 7時間 8時間	障害者福祉の歴史	障害者福祉の理念（ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン）	
5限 9時間 10時間		障害者観の変遷（偏見と差別、障害者の権利条約批准の経緯・障害者基本法の変遷）	
6限 11時間 12時間		障害者処遇の変遷	
7限 13時間 14時間	障害者に対する法制度	障害者総合支援法（障害者総合支援法の概要、障害福祉サービス及び相談支援・障害支援区分及び支給決定・自立支援医療・補装具・地域生活支援事業・障害福祉計画）	
8限 15時間 16時間			
9限 17時間 18時間			
10限 19時間 20時間		身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・児童福祉法・発達障害者支援法（法の概要・措置制度等）	
11限 21時間 22時間		障害者虐待防止法・障害者差別解消法（法の概要）	
12限 23時間 24時間		バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法（法	
13限 25時間 26時間	障害者と家族の支援における関係機関と専門職の役割	障害者と家族等の支援における関係機関の役割 関連する専門職の役割	
14限 27時間 28時間	障害者と家族等に対する支援の実際	障害領域における社会福祉士の役割	
15限 29時間 30時間		障害者と家族等に対する支援の実際	

科目名 児童・家庭福祉		科目時間総数 30時間 15限	教員名 赤羽 哲朗
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限	1時間 子どもの権利、子どもの生命と発達、子どもと家庭・地域	人権思想の広がりや児童の権利条約に通底する子ども観、子どもの権利の特徴等について理解する。	
	2時間 同上	同上	
2限	3時間 子ども家庭福祉の概念、歴史	子どもの権利保障の確立に至る歴史的経過や現代における子ども家庭福祉のあり方について理解する。	
	4時間 同上	同上	
3限	5時間 社会環境と子どもの育ち・子育てへの影響	子どもや家庭を取り巻く社会環境や子育て・子育てへの影響について理解する。	
	6時間 法体及び実施体制	子ども家庭福祉の法体系や実施体制について理解する。	
4限	7時間 関係機関・施設と利用方式	子ども家庭福祉に関わる関係機関・施設、サービスの利用方式について理解する。	
	8時間 財源と費用負担	子ども家庭福祉の財源や費用負担の仕組みについて理解する。	
5限	9時間 人材と専門職	子ども家庭福祉の行政機関、施設の役割や専門職の仕組みについて理解する。	
	10時間 子育て支援施策の展開	子育て支援施策の展開の家庭や取組の計画的推進について理解する。	
6限	11時間 母子保健	母子保健施策の概要や近年の動向について理解する。	
	12時間 保育制度	保育制度の変遷や現行制度の概要、今後の課題等について理解する。	
7限	13時間 要保護児童の施策と在宅支援	要保護児童の在宅支援の現状や取組のポイントについて理解する。	
	14時間 同上	同上	
8限	15時間 児童虐待に関わる支援	児童虐待の定義や現状、対応の仕組み、地域のネットワークによる支援について理解する。	
	16時間 社会的養護	社会的養護の概要や近年の動向、権利擁護の取組等について理解する。	
9限	17時間 ひとり親家庭への支援	ひとり親家庭の現状や支援のあり方等について理解する。	
	18時間 ドメスティックバイオレンスと女性支援	女性福祉と児童福祉の関わり、DVの現状や対応、DVの子どもへの影響について理解する。	
10限	19時間 スクールソーシャルワーク	子ども家庭・学校を取り巻く課題とスクールソーシャルワークの取組について理解する。	
	20時間 少年非行及び	非行少年への支援について理解する。	
11限	21時間 若者支援	若者支援の状況について理解する。	
	22時間 障害のある子どもへの支援	障害者の概念や定義、障害のある子どもへの支援について理解する。	
12限	23時間 子ども家庭福祉におけるソーシャルアクション	ソーシャルアクションの意義や地域のニーズを踏まえた社会資源の創出の取組等について理解する。	
	24時間 ソーシャルワークにおける支援の端緒、調査及びアセスメント	ソーシャルワークにおける支援の端緒、調査及びアセスメントについて理解する。	
13限	25時間 支援の展開過程と連携	ソーシャルワークにおける支援の展開過程と連携について理解する。	
	26時間 子ども家庭福祉におけるソーシャルワークの実際	子ども家庭福祉の各領域におけるソーシャルワークの実際について学ぶ。	
14限	27時間 同上	同上	
	28時間 同上	同上	
15限	29時間 同上	同上	
	30時間 同上	同上	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	貧困に対する支援	教員名	佐藤 雅子
科目時間数 :	30時間 (15限)	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。</p> <p>②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。</p> <p>③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。</p> <p>④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む</p> <p>③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①貧困や公的扶助の概念、貧困状態にある人の生活実態と取り巻く社会環境。</p> <p>②貧困の歴史と貧困観の変遷。</p> <p>③貧困に係る法制度と支援の仕組み。</p> <p>④貧困による生活課題、社会福祉士としての適切な支援のあり方。</p> <p>【授業における達成課題】</p> <p>当該科目について社会福祉として必要な知識と技術を習得する</p>			
	使用教材	出版社	
新社会福祉士養成講座	貧困に対する支援	中央法規出版	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
評価について：筆記試験は60点以上を合格とする。A（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無			

科目名		科目時間総数		教員名
貧困に対する支援		30時間	15限	佐藤 雅子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容		
1限 1時間 2時間	貧困の概念	○貧困の概念 ・絶対的貧困、相対的貧困、社会的排除、社会的孤立 等		
2限 3時間 4時間		○公的扶助の意義と範囲 ・公的扶助の意義（生存権、セーフティーネット、ナショナルミニマム） ・公的扶助の範囲（狭義、広義）		
3限 5時間 6時間	貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境	○貧困状態にある人の生活実態 ・健康 ・居住 ・就労 ・教育 ・社会関係資本 ○貧困状態にある人を取り巻く社会環境 ・経済構造の変化 ・家族、地域の変化		
4限 7時間 8時間	貧困の歴史	○貧困状態にある人に対する福祉の理念 ・人権の尊重 ・尊厳の保持 ・貧困、格差、差別の解消		
5限 9時間 10時間		○貧困観の変遷 ・スティグマ ・貧困の測定 ・貧困の発見		
6限 11時間 12時間		○貧困に対する制度の発展過程 ・救貧制度（日本、諸外国） ・生活保護法 ・ホームレス自立支援法 ・生活困窮者自立支援法 ・子どもの貧困対策の推進に関する法律		
7限 13時間 14時間	貧困に対する法制度	○生活保護法 ・生活保護法の原理原則と概要 ・生活保護制度の動向 ・最低生活費と生活保護基準 ・福祉事務所の機能と役割 ・相談支援の流れ		
8限 15時間 16時間		・自立支援、就労支援の考え方と自立支援プログラム ・生活保護施設の役割		
9限 17時間 18時間		○生活困窮者自立支援法 ・生活困窮者自立支援法の理念と概要 ・生活困窮者自立支援制度の動向 ・自立相談支援事業と任意事業 ・生活困窮者自立支援制度における組織と実施体制 ・相談支援の流れ		
10限 19時間 20時間		○低所得者対策 ・生活福祉資金貸付制度 ・無料低額診療所 ・無料低額宿泊所 ・求職者支援制度 ・法律扶助 ・低所得者への住宅政策と住居支援		
11限 21時間 22時間		○ホームレス対策 ・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の概要 ・ホームレスの考え方と動向 ・ホームレス支援施策		
12限 23時間 24時間		○その他の貧困に対する支援における関係機関の役割 ・社会福祉協議会		
13限 25時間 26時間	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	○関連する専門職等の役割 ・精神保健福祉士、医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法		
14限 27時間 28時間		○社会福祉士の役割		
15限 29時間 30時間	貧困に対する支援の実際	○貧困に対する支援の実際（多職種連携を含む） ・生活保護制度及び生活保護施設における自立支援、就労支援、居		

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	医学概論	教員名	菊池要子
科目時間数 :	30時間 (15限)	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	必修 ・ 選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	前期 ・ 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②人の身体構造と心身機能について理解する。 ③健康・疾病の捉え方について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②人の身体構造と心身機能について理解する。 ③健康・疾病の捉え方について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</p> <p>【授業における達成課題】</p> <p>当該科目について、社会福祉士として必要な知識を習得する。</p>			
		使用教材	出版社
新社会福祉士養成講座	医学概論		中央法規出版
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p> <p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p> <p>【備考】 上記を勘案して得点化し、A (80点以上)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満)、D (60点未満：不合格) の4段階で評価する。</p> <p>【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無</p>			

科目名		科目時間総数	教員名
医学概論		30時間 15限	菊池要子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限 1時間 2時間	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおける心身の特徴 ・心身の加齢・老化 ・ライフステージ別の健康課題 	
2限 3時間 4時間	健康及び疾病の捉え方	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と疾病の概念 ・国際生活機能分類（ICF）の概要 	
3限 5時間 6時間	身体構造と心身機能	<ul style="list-style-type: none"> ・人体部位の名称 ・器官系と臓器の役割 	
4限 7時間 8時間	疾病と障害の成り立ち及び回復過程	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病の発生原因（外的要因・内的要因） ・病変の成立機序（炎症、変性、虚血、発癌、免疫反応） 	
5限 9時間 10時間	リハビリテーションの概要と範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの定義・目的・対象・方法 	
6限 11時間 12時間	疾病と障害および予防・治療・予後	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症 	
7限 13時間 14時間	疾病と障害および予防・治療・予後	<ul style="list-style-type: none"> ・神経疾患、認知症、高次脳機能障害 ・脳血管疾患 	
8限 15時間 16時間	疾病と障害および予防・治療・予後	<ul style="list-style-type: none"> ・心疾患 ・内分泌・代謝疾患 	
9限 17時間 18時間	疾病と障害および予防・治療・予後	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患 ・腎・泌尿器疾患 	
10限 19時間 20時間	疾病と障害および予防・治療・予後	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器・肝胆膵疾患 	
11限 21時間 22時間	疾病と障害および予防・治療・予後	<ul style="list-style-type: none"> ・骨・関節の疾患 ・血液・免疫・アレルギー疾患 	
12限 23時間 24時間	疾病と障害および予防・治療・予後	<ul style="list-style-type: none"> ・眼科疾患・視覚障害 ・耳鼻咽喉疾患・聴覚障害・平衡機能障害 ・口腔疾患 	
13限 25時間 26時間	疾病と障害および予防・治療・予後	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人科・産科 ・精神疾患・精神障害・発達障害 ・小児科疾患・肢体不自由・知的障害 	
14限 27時間 28時間	疾病と障害および予防・治療・予後	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣、内部障害 ・悪性腫瘍と緩和ケア 	
15限 29時間 30時間	公衆衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の概要 ・健康増進と保健医療対策 	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 権利擁護を支える法制度		教員名 阿部孝司	
科目時間数 : 30時間		授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択		配当学年 : 2年	開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中
【授業の目的・ねらい】 障がいを持つ人たちの権利侵害と権利擁護について理解を深め、憲法、民法、行政法などの法を理解する。権利擁護を支える成年後見制度や日常生活自立支援事業の制度を学び、事例を通してその実際を理解する。			
【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む			
【授業全体の内容の概要】 ソーシャルワークと法との関りについて理解する。権利擁護の意義と支える仕組みについて理解できる。権利擁護に関わる組織団体専門職を理解する。成年後見制度と日常生活自立支援事業を理解しその実際について知る。			
【授業における達成課題】 障がいを持つ人たちの権利侵害と権利擁護について理解を深め、憲法、民法、行政法などの関係法を理解できる。権利擁護を支える成年後見制度や日常生活自立支援事業の制度を学び、事例を通してその実際を理解し、ソーシャルワーク実践に活かすことができる。			
【使用教材・テキスト等】 共通科目 使用教材：最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 一般社団法人 日本ソーシャルワーカー教育学校連盟 編集 権利擁護を支える法制度 出版社：中央法規			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 授業態度 (リアクションペーパー等) 20% 出席率20% テスト・レポート60%			
【備考】 1. テスト、レポートの点数は60点以上を合格とする 2. テスト、レポートは教科書やノートなど持ち込みを不可とする。 3. 授業態度は本校の成績評価基準で評価する			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
【内容】 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
権利擁護を支える法制度		30時間	阿部 孝司
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1	1時間	オリエンテーション	自己紹介 この教科で学ぶ意義と全体像を理解できる
	2時間	権利擁護と人権	権利擁護に必要な法制度を理解できる
2	3時間	憲法	憲法の役割と概要を理解できる
	4時間	自由権・社会権・幸福追求権	人権の種類、内容、性質、および人権調整を理解できる
3	5時間	統治機構	統治機構と裁判例を理解できる
	6時間	民法	権利擁護に関わる民法の基本となる原則を理解できる
4	7時間	民法	契約に関する基本を理解できる 不法行為の基本を理解できる
	8時間	民法	親族・相続に関する基本を理解できる
5	9時間	行政法	行政活動の形式とその特徴と救済の対象を理解できる
	10時間	行政法	救済の対象となる行政活動の形式について適切な救済手段を理解できる
6	11時間	意思決定支援	支援付き意思決定支援は基本的人権として保障されていることを理解できる
	12時間	意思決定支援	支援付き意思決定支援と代理代行決定を区別する理由について理解できる
7	13時間	意思決定支援ガイドライン	意思決定支援ガイドライン相互の関係性を理解できる
	14時間	意思決定支援ガイドライン	意思決定全体のプロセスとチームアプローチの重要性を理解できる
8	15時間	意思決定支援ガイドライン	意思決定能力アセスメントと代理代行決定のプロセスについて理解できる
	16時間	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントの概念の成立と進化・変容について理解できる
9	17時間	秘密・プライバシー・個人情報	個人情報の秘密やプライバシーを守ることの重要性と個人情報保護法について理解できる
	18時間	権利擁護活動と社会の安全	ソーシャルワーカーにとって必要な守秘義務と警告義務、専門職のジレンマについて理解できる
10	19時間	権利擁護に関わる組織・団体	権利擁護に関わる組織、団体の概要、役割について理解できる
	20時間	権利擁護に関わる専門職	権利擁護に関わる専門職の概要、役割について理解できる
11	21時間	成年後見制度	成年後見制度の概要、申立ての概況、関係を理解できる
	22時間	後見	後見の概要を理解できる
12	23時間	補佐	補佐の概要を理解できる
	24時間	補助、任意後見	補助、任意後見の概要を理解できる
13	25時間	成年後見制度の最近の動向	成年後見制度の利用動向、利用の促進に関する法律、利用促進基本計画を理解できる
	26時間	成年後見利用支援事業	成年後見利用支援事業について理解できる
14	27時間	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業の概要を理解できる
	28時間	事例研究	成年後見制度や日常生活支援事業の事例を理解できる
15	29時間	社会福祉士・精神保健福祉士の活動	社会福祉士、精神保健福祉士の権利擁護活動事例を理解できる
	30時間	テスト	まとめのテスト・レポートを実施

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	高齢者福祉	教員名	高橋洋子
科目時間数 :	30時間 (15限)	授業の種類 :	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 日本は団塊の世代の高齢化に伴い「超高齢化社会」に突入し、高齢者支援の需要がより高まっていくこと。独居や高齢者のみ世帯の増加など生活環境が脆弱化している中で、認知症・老々介護など高齢者が直面する問題や地域生活課題の現状を理解した上で、介護保険制度や関連する制度施策を学び、適切な高齢者支援の視点と実践力をつけることをねらいとする。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 テキストに沿った講義を中心とする。基本的なことを理解した上で、実践事例についてグループで事例検討を行い、実践力の習得をめざす。</p> <p>【授業における達成課題】 ・高齢者福祉の歴史と理念を学び、現在の高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境を理解した上で、具体的な課題を把握することができる。 ・介護保険制度と関連制度、施策を理解し、具体的な支援について考えることができる。 ・高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割、関係機関や関連する多職種等との協働など重層的支援体制を視野に入れて理解することができる。</p>			
		使用教材	出版社
		高齢者に対する支援と介護保険制度	中央法規
【使用教室】			
1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】			
1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
筆記試験は60点以上を合格とする			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
【内容】 福祉施設での現場経験有り			

科目名		科目時間総数	教員名
高齢者福祉慧遠		30時間	高橋洋子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間	高齢者と少子高齢社会	高齢者の特性について理解することが出来る	
2時間			
2限 3時間		高齢化の進展に伴う課題を理解し、今後の在り方について考えることができる	
4時間			
3限 5時間	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境	高齢者の生活の諸側面および取り巻く社会環境について理解する	
6時間			
4限 7時間	高齢者福祉の歴史と理念	高齢者観の変遷を学び高齢者福祉の発展過程を理解する	
8時間			
5限 9時間	介護保険制度	介護保険制度の枠組み・仕組みについて学ぶ	
10時間		保険給付・介護報酬・利用者負担について理解する	
6限 11時間		要介護認定の仕組みとプロセスについて理解する	
		12時間	要介護認定調査（演習）
7限 13時間		地域支援事業について理解する	
		14時間	地域包括支援センターの役割を学ぶ
8限 15時間		介護保険サービスの特徴を理解する	
		16時間	居宅サービスと施設サービスについて理解する
9限 17時間	高齢者に対する関連諸制度	関連諸制度について整理して説明できる (老人福祉法・医療確保法・虐待防止法・認知症基本法)	
18時間			
10限 19時間		関連諸制度について整理して説明できる (バリアフリー法、住まい法、雇用安定法、育児介護休業法)	
20時間			
11限 21時間	関係機関と専門職の役割	高齢者と家族を支援する関係機関や専門職種について説明できる	
22時間			
12限 23時間	支援の実際	ケアマネジメント手法について理解する	
24時間		グループ・地域へのソーシャルワークを理解する	
13限 25時間		家族へのソーシャルワーク（演習）	
		26時間	事例3「8050問題」の状況下で高齢者虐待が疑われる事例
14限 27時間		認知症ケアにおけるソーシャルワーク（演習）	
28時間	事例5地域包括ケアシステムにおける居宅・認知症高齢者		
15限 29時間		全体のまとめ	
30時間			

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	社会調査の基礎		教員名	佐藤 雅子	
科目時間数 :	30時間	(15限)	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	2年	開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 社会調査の基礎的知識・技術を学び、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 (※当該科目が最も関連する項目に○) 1. 多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む 2. 支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む 3. 身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・社会調査の意義。 ・社会調査の種類と方法。 ・社会調査の実際。</p> <p>【授業における達成課題】 ・社会福祉になぜ社会調査の知識や技術が必要とされるかを理解する ・量的調査の流れを理解し、実際に調査できるようになる ・演習を通じて質的調査の流れを理解し、実際に調査できるようになる</p>					
	使用教材		出版社		
	社会福祉調査の基礎		中央法規出版		
【使用教室】					
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室		
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()			
【評価方法】					
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度		
5. 実技試験	6. その他 ()				
【備考】					
評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。					
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無					
【内容】 県社会福祉協議会等での実務経験あり					

科目名		科目時間総数	教員名
社会調査の基礎		30時間	15限 佐藤 雅子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> この科目を受講することで、何が分かり、何を身につけることができるのかの見通しがもてるようになる。 	
	第1回 社会調査・社会福祉調査とはなにか	<ul style="list-style-type: none"> 社会調査・社会福祉調査の概要（定義）を理解できるようになる。 達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。 	
2限 3時間 4時間	第2回 社会調査の種類と流れ	<ul style="list-style-type: none"> 社会調査には、大きく分類して「量的調査」と「質的調査」があることを理解できるようになる。 社会調査の流れを大まかに理解できるようになる。 達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。 	
	第3回 量的調査の特徴と種類	<ul style="list-style-type: none"> 全数調査と標本調査の違いを説明できるようになる。 「母集団」、「標本」、「抽出」それぞれの言葉の意味を説明できるようになる。 無作為抽出法を実践できるようになる。 無作為抽出には5つの方法があることを理解し、どのような場合にいずれの抽出法を選択すればよいのか、答えられるようになる。 	
3限 5時間 6時間	第4回 量的調査の実際 ①調査票の作成	<ul style="list-style-type: none"> 横断調査と縦断調査の違いを説明できるようになる。 縦断調査のうち、動向調査、パネル調査、コーホート調査の違いを説明することができるようになる。 「自計式」と「他計式」の違いを説明できるようになる。 達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 概念の明確化・操作化の意味を理解し、実践できるようになる。 仮説の意味を理解し、演習を通し仮説が立てられるようになる。 	
4限 7時間 8時間	第5回 量的調査の実際 ②調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> 質問項目を作成する上で注意しなければならない点があることを理解できるようになる。 「キャリアオーバー効果」「ダブルバーレル質問」について説明できるようになる。 選択枝の設定方法を理解し、どういった場合にどの方法を採用すればよいかおおよそ判断できるようになる。 4つの尺度の違いを説明できるようになる。 選択枝を作成する上で注意しなければならない点があることを理解できるようになる。 フェイスシートとは何かを理解し、演習を通し作成することができるようになる。 調査協力お願い文を作成できるようになる。 達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 調査実施の方法について、それぞれのメリット・デメリットを理解し、仮に自分が実施しようとしている調査の場合に、どの方法が最も適切であるかをおおよそ判断できるようになる。 達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。 	
6限 11時間 12時間	第6回 量的調査の実際 ③データの集計	<ul style="list-style-type: none"> データクリーニングの方法を理解できるようになる。 度数分布表、クロス集計表を実際に作成できるようになる。 表の種類を学び、それぞれどういった結果を表すのに適しているのかを理解できるようになる。 達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 標本平均、中央値、最頻値の意味を理解できるようになると同時に、エクセル上で算出できるようになる。 社会調査を行うものの倫理について、特に大切な点を2点挙げるができるようになる。 	
7限 13時間 14時間	第7回 代表値と調査倫理	<ul style="list-style-type: none"> 標本平均、中央値、最頻値の意味を理解できるようになると同時に、エクセル上で算出できるようになる。 社会調査を行うものの倫理について、特に大切な点を2点挙げるができるようになる。 	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
8限 15時間 16時間	第8回 質的調査の実際 (2日間スクーリング)	<ul style="list-style-type: none"> 達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。
9限 17時間 18時間		<ul style="list-style-type: none"> 質的調査とは何かを答えられるようになる。 質的データとは何かを答えられるようになる。 質的調査のメリット・デメリットを説明できるようになる。 構造化インタビューについて説明できるようになる。
10限 19時間 20時間		<ul style="list-style-type: none"> 演習を通し、与えられたテーマをもとにインタビューの質問文を作成することができるようになる。 演習を通して、20分間のインタビュー調査をできるようになる。 演習を通して、音声データを文字におこすことができるようになる。 演習を通して、KJ法を用いた質的データの分析を実際に体験する。
11限 21時間 22時間		
12限 23時間 24時間		
13限 25時間 26時間		
14限 27時間 28時間		
15限 29時間 30時間		

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 福祉サービスの組織と経営	教員名 細 田 重 憲		
科目時間数 : 30時間 (15限)	授業の種類 : <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習		
必修・選択の別 : <u>必修</u> ・ 選択	配当学年 : 2年 開講時期 : <u>前期</u> ・ 後期 ・ 集中		
<p>【授業の目的・ねらい】 社会福祉制度と利用者とを繋ぐ「福祉サービス」について、実際に福祉サービスを提供している組織（主体）にはどのような組織があるか、その運営はどのような理論・研究に基づいて行われているか、実際の経営・管理はどのように行われているかなどを学び、組織や経営の視点から個別の実践・福祉サービスを考えることができるようになる。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 福祉サービスについて、①福祉サービスの概念、②福祉サービスを提供する多様な組織（種類、特徴など）、③組織が持つ特性や力学、組織におけるリーダーシップのあり方などの理論、④福祉サービス提供組織の経営体制、経営管理、情報管理、会計管理など経営の実際、⑤福祉人材マネジメント・育成 などの視点から学んでいく。</p> <p>【授業における達成課題】 ①福祉サービスを提供している多様な組織について、それぞれが果たすべき役割・意義を論ずることができる。②組織に関する基礎的な理論及び経営管理の実際から、自分の実習先、進路希望先の組織について分析・検討ができるようになる。③社会人としての自分のキャリアパスを考えることができる。</p>			
	使用教材	出版社	
	「福祉サービスの組織と経営」最新 社会福祉士養成講座	中央法規出版	
【使用教室】			
1. <u>HR</u>	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	<u>2. レポート</u>	<u>3. 出席</u>	<u>4. 授業態度</u>
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】 テキストは新カリ対応だが、旧カリを踏まえて説明する 評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無			
【内容】 福祉施設運営経験あり。			

科目名		科目時間総数	教員名
福祉サービスの組織と経営		30時間 15限	細田重憲
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション 福祉サービスとは」	○ 学習目的、範囲、授業の進め方、参画の仕方を理解する ○ 福祉サービスという言葉の意味、基本的理念について理解する	
2限 3時間 4時間	福祉サービスを提供する組織①	○ 福祉サービス提供組織が多様であること、法人制度について理解する。 ○ 社会福祉法人の福祉サービスにおける意義、法的根拠、規制が説明できる	
3限 5時間 6時間	福祉サービスを提供する組織②	○ NPO法人、医療法人等の特質、福祉サービスにおける役割などを理解し、説明できるようになる。	
4限 7時間 8時間	福祉サービスを提供する組織③	○ 措置時代からの歴史的経緯を踏まえ、現代社会における福祉サービスの意味を説明できるようになる。	
5限 9時間 10時間	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論①	○ 組織に関する基礎理論、組織の三要素を理解し、組織におけるコンフリクト、モチベーションについて実際の例をもとに説明できるようになる。	
6限 11時間 12時間	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論②	○ 集団の力学、チームの機能について理解するし、これまでに属した集団における実際例を考え、話すことができる。	
7限 13時間 14時間	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論③	○ リーダーシップ・フォロワーシップについて理解し、望ましいリーダーシップについて自分の考えを説明できる。	
8限 15時間 16時間	福祉サービス提供組織の経営と実際	○ 非営利法人(社会福祉法人)、営利法人(株式会社)の経営体制を理解し、福祉サービスにとってのメリット、デメリットを比較、説明できる。	
9限 17時間 18時間	福祉サービス提供組織の経営と実際	○ コンプライアンス、ガバナンスの概念を理解し、今日、組織にとって不可欠である理由を実例を踏まえて説明できる。	
10限 19時間 20時間	福祉サービス提供組織の経営と実際	○ 福祉経営の特質、福祉経営におけるマーケティングの必要性を理解する。○ る苦情解決、リスクマネジメントの重要性を理解し、実例をあげて説明できる。	
11限 21時間 22時間	福祉サービス提供組織の経営と実際	○ 情報管理と会計・財務管理の必要性、概要を理解する。	
12限 23時間 24時間	福祉人材のマネジメント	○ 人材マネジメントの意味、必要性を理解する。	
13限 25時間 26時間	福祉人材のマネジメント	○ 福祉人材育成の必要性、育成の実際、キャリアパスの意味と意義を理解し、自らの問題として意見を言うことができる。	
14限 27時間 28時間	福祉人材のマネジメント	○ 労務管理、労働環境整備の福祉サービスにとっての意義を理解する。	
15限 29時間 30時間	まとめ	○ これまでの学習のまとめ、期末試験のガイダンス等	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 刑事司法と福祉	教員名 大富和弘		
科目時間数 : 30時間 (15限)	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習		
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択	配当学年 : 3年	開講時期 : 前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。更生保護を中心に、刑事司法、少年司法分野で活動する組織・団体及び専門職について理解する。 刑事司法・少年司法分野その他機関との連携の在り方について理解する</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・ 更生保護制度の概要・担い手・関係機関・団体 ・ 医療観察制度の概要 ・ 更生保護制度における近年の動向と課題</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目について社会福祉士が行う相談援助に必要な知識と技術を習得する</p>			
	使用教材	出版社	
	更生保護制度	中央法規出版	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
評価について：筆記試験は60点以上を合格とする。A（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
【内容】 福祉施設等での現場経験有り			

科目名		科目時間総数	教員名
更生保護制度		30時間	大富和弘
限	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限 1時間 2時間	更生保護制度の概要	刑事司法のなかの更生保護が理解できる	
2限 3時間 4時間		仮釈放について理解する	
3限 5時間 6時間		保護観察について理解する	
4限 7時間 8時間		生活環境の調整について理解する	
5限 9時間 10時間		更生緊急保護について理解する	
6限 11時間 12時間		犯罪被害者等の施策について理解する	
7限 13時間 14時間		恩赦について理解する	
8限 15時間 16時間		犯罪予防活動について理解する	
9限 17時間 18時間	更生保護制度の担い手	保護監察官・保護司など制度の担い手について理解する	
10限 19時間 20時間			
11限 21時間 22時間	関係機関との連携	裁判所・検察庁など関係機関や団体との連携について理解する	
12限 23時間 24時間			
13限 25時間 26時間	医療観察制度の概要	医療観察法に基づく処遇制度の創設について理解する	
14限 27時間 28時間		生活環境の調査・調整について理解する	
15限 29時間 30時間	更生保護の実際と今後の展望	保護観察官・社会復帰調整官の業務について理解する	

科目名		科目時間総数	教員名	
ソーシャルワークの理論と方法（専門		60時間	高橋勝	
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標		
1限	2時間 イントロダクション の説明と確認作業 一年間の授業展開	担当教員がこれまで関与してきた経験談からSWrのイメージが意識できる。		
2限	4時間 総合的かつ包括的な支援におけるSWの実際	多様化・複雑化した生活課題から境界線を越えた問題解決の関わりについて ミクロ⇒メゾ⇒マクロレベルをイメージできる。		
3限	6時間	↓		
4限	8時間			
5限	10時間 家族支援の実際			家族が抱える課題とその理解から具体的な家族支援について理解する。
6限	12時間 地域支援の実際			SWの基盤的視点であるミクロ・メゾ・マクロレベルの基本的視点を通じて地域支援の実践・課題をイメージできる
7限	14時間 非常時や災害時支援の実際	SWの基盤的視点であるミクロ・メゾ・マクロレベルの基本的視点を通じて災害支援の実践・課題をイメージできる		
8限	16時間 ソーシャルワークにおける援助関係の形成	SWの対象との援助関係を倫理綱領等の概念定義と実践レベルでの関係形成に向けた留意点を含め理解できる		
9限	18時間 ネットワークとコーディネーションの理解	ネットワークとコーディネーションについてそれぞれの性質、機能、有効性について理解できる。		
10限	20時間	↓		
11限	22時間			
12限	24時間 SWにおける社会資源の活用・調整・開発	社会資源とは何かを理解し、活用する意義と目的を明確化できる。		
13限	26時間	社会資源を開発することの重要性と関係性について理解できる		
14限	28時間 ↑	社会資源を開発する様々な方法をイメージできる。		
15限	30時間 (中間試験)	(中間にこれまでの学びの確認と学習方法について検討する)		

時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
16限	32時間	カンファレンスについて学ぶ	会議についての意義と目的について理解できる	
17限	34時間	↓	↓	
18限	36時間		事例分析、事例検討、事例研究とは何かを理解する	事例分析の目的、意義、留意事項について理解できる
19限	38時間		↓	事例検討の目的、意義、留意事項について理解できる
20限	40時間		↓	事例研究の目的、意義、留意事項について理解できる
21限	42時間	ソーシャルワークに関連する技法を学ぶ	ネゴシエーションとは何か、その原則論とプロセスを理解できる	
22限	44時間	↓	↓	
23限	46時間		コンフリクト・レゾリューションの意義・目的と展開過程について理解できる	
24限	48時間		↓	
25限	50時間		ファシリテーションの意義・目的と展開過程について理解できる	
26限	52時間		↓	
27限	54時間		プレゼンテーションの意義・目的と展開過程について理解できる	
28限	56時間		↓	
29限	58時間	ソーシャル・マーケティングについて学ぶ	ソーシャル・マーケティングについて理解できる	
30限	60時間	全体のまとめ	全体の振り返り	
31限		(筆記試験)		

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	保健医療と福祉	教員名	菊池 要子
科目時間数：	30時間	15限	授業の種類： <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別：	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択	配当学年： 3年次	開講時期： 前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解できる。 ②保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解できる。 ③保健医療領域における社会福祉士の役割と連携や協働について理解できる。 ④保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解できる。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①社会福祉の原理・基盤・政策を理解する。 ②複合化・複雑化した福祉課題と包括的な支援を理解する。 ③人・環境・社会とその関係を理解する。 ④ソーシャルワークの基盤・理論・方法を理解でき、実践できる。</p> <p>【授業における達成課題】</p> <p>地域共生社会の実現に向けて、複合化・複雑化した課題を受けとめる包括的な相談支援ができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	最新社会福祉士養成講座 5	中央法規	
教員参考用	保健医療と福祉		
【使用教室】			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
<p>【備考】 実技試験は60点以上を合格とする。 評価について：筆記試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>			
【担当教員の実務経験】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
【内容】 看護師・介護支援専門員・認知症介護指導員			

科目名		科目時間総数		教員名
保健医療と福祉		30時間	15限	菊池 要子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標		
1限 1時間 2時間	保健医療の課題を持つ人の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・病者の理解 ・家族の理解 ・患者の理解 		
2限 3時間 4時間	医療倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理と倫理的課題 ・患者の意思決定をめぐる課題 		
3限 5時間 6時間	保健医療の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病構造の変化 ・入院医療から在宅医療 ・病院完結型医療から地域完結型医療へ 		
4限 7時間 8時間	保健医療の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・保険医療における福祉的課題 		
5限 9時間 10時間	保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療の政策・制度 ・保健医療サービスの提供体制 		
6限 11時間 12時間	保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識	<ul style="list-style-type: none"> ・医療費の保障 		
7限 13時間 14時間	保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の政策・制度 		
8限 15時間 16時間	保健医療領域における専門職の役割と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療領域における専門職と院内連携 		
9限 17時間 18時間	保健医療領域における専門職の役割と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係機関との連携の実際 		
10限 19時間 20時間	保健医療領域における専門職の役割と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の構築 		
11限 21時間 22時間	保健医療領域における支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の構築 		
12限 23時間 24時間	保健医療領域における支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療領域における支援の実際 事例1・2を通して考える 		
13限 25時間 26時間	保健医療領域における支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療領域における支援の実際 事例3・4・5を通して考える 		
14限 27時間 28時間	保健医療領域における支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療領域における支援の実際 事例6・7を通して考える 		
15限 29時間 30時間	保健医療領域における支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療領域における支援の実際 事例8を通して考える ・まとめ 		

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	社会保障	教員名	熊谷雅順
科目時間数 :	60時間	30限	授業の種類 :
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	3年
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 ①現代社会における社会保障制度の課題について理解する②社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する③公的保険制度と民間保険制度の関係④社会保障制度の体系と概要について理解する⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する⑥諸外国における社会保障制度の概要について理解する</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ○現代社会における社会保障制度の課題○社会保障の概念や対象及びその理念○釈迦保障の財源と費用○社会保険と社会扶助の関係○公的保険制度と民間保険制度の関係○社会保障制度の体系○年金保険制度の具体的内容○医療保険制度の具体的内容○諸外国における社会保障制度の概要</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目について社会福祉士が行う相談援助に必要な知識と技術を習得する</p>			
	使用教材	出版社	
	社会保障	中法法規出版	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
評価について：筆記試験の結果によりA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無			

科目名		科目時間総数	教員名
社会保障		60時間	熊谷 雅順
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	2時間 現代社会と社会保障	社会保障制度の範囲について学ぶ	
2限	4時間 社会保障の歴史	社会保障の理念と機能を理解する	
3限	6時間 社会保障の構造	社会保険の構造について学ぶ①	
4限	8時間 社会保障の構造	社会保険の構造について学ぶ②	
5限	10時間 社会保障の財源と費用	社会保障制度の体系について学ぶ	
6限	12時間 社会保障の財源と費用	社会保険の構造について学ぶ	
7限	14時間 年金保険制度	国民年金について学ぶ①	
8限	16時間 年金保険制度	国民年金について学ぶ②	
9限	18時間 年金保険制度	国民年金について学ぶ③	
10限	20時間 年金保険制度	国民年金について学ぶ④	
11限	22時間 年金保険制度	厚生年金について学ぶ⑤	
12限	24時間 医療保険制度	医療保険制度について学ぶ①	
13限	26時間 医療保険制度	医療保険制度について学ぶ②	
14限	28時間 医療保険制度	医療保険制度について学ぶ③	
15限	30時間 医療保険制度	医療保険制度について学ぶ④	
16限	32時間 介護保険制度	介護保険制度について学ぶ①	
17限	34時間 介護保険制度	介護保険制度について学ぶ②	
18限	36時間 介護保険制度	介護保険制度について学ぶ③	

19限	38 時間	介護保険制度	介護保険制度について学ぶ④
20限	40 時間	労働保険制度	労働者災害補償保険について学ぶ①
21限	42 時間	労働保険制度	労働者災害補償保険について学ぶ②
22限	44 時間	労働保険制度	雇用保険について学ぶ①
23限	46 時間	労働保険制度	雇用保険について学ぶ②
24限	48 時間	社会福祉制度	社会福祉制度について学ぶ①
25限	50 時間	社会福祉制度	社会福祉制度について学ぶ②
26限	52 時間	社会保障と民間保険	民間保険について学ぶ
27限	54 時間	社会保障が当面する課題	社会保障が当面する課題について学ぶ
28限	56 時間	諸外国における社会保障制度	諸外国における社会保障制度について学ぶ①
29限	58 時間	諸外国における社会保障制度	諸外国における社会保障制度について学ぶ②
30限	60 時間	全体のまとめ	全体の復習

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	ソーシャルワーク演習		教員名	砂田 麻子	
科目時間数 :	30時間 15限		授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 :	必修・選択		配当学年 :	2年	
			開講時期 :	前期・後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解するとともに、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養い、知識と技能を実践的に理解する。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）やグループディスカッションを中心とした演習形態により、知識や技能及びコミュニケーション能力を実践的に体得する。</p> <p>【授業における達成課題】 ①自己理解と他者理解（自己覚知）を深める。 ②基本的なコミュニケーション技術について理解し実践できる。 ③基本的な面接技術について理解し実践できる。 ④ソーシャルワークの展開過程についてプロセスを学ぶ。</p>					
	使用教材	出版社			
学生用 教員参考書	最新 社会福祉士養成講座 ソーシャルワーク演習（共通） ソーシャルワーク実践事例集 ソーシャルワーク演習ケースブック 学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習	中央法規出版 明石書店 (株)みらい ミネルヴァ書房			
【使用教室】					
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室		
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()			
【評価方法】					
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度		
5. 実技試験	6. その他 ()				
【備考】					
評価について：レポートを合格すること。筆記試験（近大試験）においてA（80点以上）B（70～79）C（60～69）D（59点以下：不合格）とする					
【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無					
【内容】 マニュアル・ソーシャルワークとしての実務経験					

科目名		科目時間総数		教員名	
ソーシャルワーク演習		30時間	15限	砂田 麻子	
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容			
1限 1時間 2時間	自己覚知	自分の物事の考え方について改めて考える 「私は～です」			
2限 3時間 4時間	自己覚知	自分マップ作り 自分を見つめる			
3限 5時間 6時間	自己覚知	自分のジェノグラム、エコマップを書いてみよう			
4限 7時間 8時間	物事のとらえ方	様々な視点で物事のとらえ方を学ぶ 事件を元に様々な角度から考えてみよう			
5限 9時間 10時	ソーシャルワークの流れ	ソーシャルワークの展開 中央法規ソーシャルワーク演習 (共通科目)			
6限 11時 12時	ソーシャルワークの流れ	ソーシャルワークの展開 中央法規ソーシャルワーク演習 (共通科目)			
7限 13時 14時	面接	面接の目的・面接の基盤 中央法規ソーシャルワーク演習 (共通科目) 118～124			
8限 15時 16時	インテーク	事例を用いインテークからモニタリングまでの流れを理解する① 事例中心で学ぶ相談援助演習 4 1～4 3			
9限 17時 18時	アセスメント	事例を用いインテークからモニタリングまでの流れを理解する② 事例中心で学ぶ相談援助演習 4 4～4 6			
10限 19時 20時	プランニング	事例を用いインテークからモニタリングまでの流れを理解する③ 事例中心で学ぶ相談援助演習 4 7～4 9			
11限 21時 22時	モニタリング	事例を用いインテークからモニタリングまでの流れを理解する④ 事例中心で学ぶ相談援助演習 5 0～			
12限 23時 24時	役割について考える	様々な役割を演じてみることで立場や役割について考える			
13限 25時 26時	受容	受容するということについて体験的に理解する ソーシャルワーク演習ケースブック 7 0～7 3			
14限 27時 28時	他者理解	それぞれの価値観の違い 価値観の違い、他者の行動を理解する 対人援助のためのグループワーク 8 4～8 5 「ネクタイ」			
15限 29時 30時	アセスメント	実習前の不安な気持ちや期待、課題等をお互いの話を聞き整理する			

科目名		科目時間総数		教員名
ソーシャルワーク演習（専門）		30時間	15限	砂田 麻子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容		
1限 1時間 2時間	実習振り返り	実習での体験をまとめて発表する		
2限 3時間 4時間	実習振り返り	実習での体験をまとめて発表する		
3限 5時間 6時間	高齢者	事例を元に障害児とその家族の支援を考える 事例中心で学ぶ相談援助演習 73～77		
4限 7時間 8時間	障害児	事例を元に障害児とその家族の支援を考える 事例中心で学ぶ相談援助演習 73～77		
5限 9時間 10時	個別化	事例を元に個別化について考える ソーシャルワーク演習ケースブック 66～69		
6限 11時 12時	グループワーク	新人研修（3年生との合同授業）		
7限 13時 14時		価値観の違いについて理解する 「トポス」 対人援助のグループワーク 110～115		
8限 15時 16時	権利擁護	事例を元に差別、権利擁護について考える ソーシャルワーク演習ケースブック 46～50		
9限 17時 18時	児童	事例を元に児童の分野での問題について考える ソーシャルワーク演習ケースブック 81～87		
10限 19時 20時	社会正義	事例を元に差別、偏見について考える ソーシャルワーク演習ケースブック 35～40		
11限 21時 22時	記録	面接相談記録の作成を通して実践的な記録の書き方について学ぶ 学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習 96～101		
12限 23時 24時	スクールソーシャルワーク	事例を元にスクールソーシャルワーカーの仕事について理解する ソーシャルワーク演習ケースブック 188～194		
13限 25時 26時	自己覚知	自分について作業を通して振り返る 「わたしの木」 対人援助のためのグループワーク 121～123		
14限 27時 28時	グループワーク	情報を共有し一つの答えを出す 「海賊フックの財宝」 対人援助のためのグループワーク 35～43		
15限 29時 30時	グループワーク	昆布おにぎりゲーム		

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ソーシャルワーク演習	教員名 砂田 麻子
科目時間数 : 90時間 45限	授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 3年 開講時期 : 前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>① ソーシャルワークの価値に基づいて実践で何をめざすべきかを述べるができる。 ② ソーシャルワークの基本的な視点と知識に基づいて、クライアントの状況を多面的に理解し、他者がわかるように説明することができる。 ③ ミクロ、メゾ、マクロのそれぞれのレベルでの介入について理解し、基本的な介入スキルを身に付けている。 ④ ソーシャルワーク実践の評価について理解し、実践についての自己評価ができ、実践の改善に役立てることができる。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>① 多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ② 支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③ 身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）やグループディスカッションを中心とした演習形態により、知識や技能及びコミュニケーション能力を実践的に体得する。 ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるようにする。</p> <p>【授業における達成課題】</p> <p>① 具体的な事例を活用し、クライアントの抱える複合的な課題に対して総合的かつ包括的な支援について実践することができる。 ② 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し実践できる。</p>	
	使用教材
出版社	
学生用 教員参考書	<p>最新 社会福祉士養成講座 ソーシャルワーク演習（専門） 社会福祉士養成講座 相談援助演習 ソーシャルワーク実践事例集 ソーシャルワーク演習ケースブック 学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習</p>
中央法規出版 中央法規出版 明石書店 (株)みらい ミネルヴァ書房	
【使用教室】	
1. HR	2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室 7. その他 ()
【評価方法】	
1. 筆記試験	2. レポート 3. 出席 4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()
【備考】	
評価について：レポートを合格すること。筆記試験（近大試験）においてA（80点以上）B（70～79）C（60～69）D（59点以下：不合格）とする	
【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無	
【内容】 スクールソーシャルワーカーとしての実務経験	

科目名		科目時間総数	教員名
ソーシャルワーク演習		90時間	砂田 麻子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限 2 時間	コミュニケーション	グループワークを通し非言語コミュニケーションについて体験する 「移民 であらめ島」 対人援助のためのグループワーク	
2限 4 時間	自己覚知	自分の気持ちをまとめ、自分の課題を言葉で整理する 「私の信念」 対人援助のためのグループワーク	
3限 6 時間	スクールソーシャルワーク	スクールソーシャルワーカーによる学校内での情報収集 相談援助演習教員テキスト 171～174	
4限 8 時間	倫理的ジレンマ	事例を用い、専門職の抱えるジレンマについて考える ソーシャルワークケースブック 63～65	
5限 10 時間	高齢支援	超高齢化社会における高齢者の地域支援	
6限 12 時間	高齢者支援	独居生活を余儀なくされる若年性認知症の事例 対人援助のための相談援助演習ワークブック 254～262	
7限 14 時間	社会福祉協議会	事例を用い社協での支援を考える ミネルヴァ・ワークブック 306～314	
8限 16 時間	アウトリーチ	事例を元にアウトリーチの必要性、手法について学ぶ	
9限 18 時間	障がい者支援	卒業後の進路について家族の思いが異なる障害者への支援 実践事例集 76～80	
10限 20 時間	相談援助の過程①	事例を用い、相談援助の過程について学ぶ ミネルヴァ相談援助演習 99～119	
11限 22 時間	相談援助の過程②	事例を用い、相談援助の過程について学ぶ ミネルヴァ相談援助演習 99～119	
12限 24 時間	相談援助の過程③	事例を用い、相談援助の過程について学ぶ ミネルヴァ相談援助演習 99～119	
13限 26 時間	児童虐待	虐待環境にある過程への介入と子どもへの支援 実践事例集 81～83	
14限 28 時間	子ども・家庭支援①	生活の困難が背景にあり子どもがネグレクトされている過程への介入と支援 実践事例集 40～50	
15限 30 時間	子ども家庭支援②	生活の困難が背景にあり子どもがネグレクトされている過程への介入と支援 実践事例集 40～51	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容
16 32 時間	家庭支援	事例を元に支援の方法を様々な視点から考える 「母子分離した家庭への支援とアフターケア」 実践事例集
17 34 時間	生活保護	事例を元にひとり親世帯への支援を考える 「生活保護を受給しているひとり親世帯の自立支援」
18 36 時間	日常生活自立支援事業	事例を元にフォーマル・インフォーマルサービスについて考える 実践事例集
19 38 時間	障がい者支援①	事例を通し障害者への支援を考える 「入所施設における強度行動障害者への支援と家族との関わりの難しさ」 実践事例集
20 40 時間	障がい者支援②	事例を通し障害者への支援を考える 「入所施設における強度行動障害者への支援と家族との関わりの難しさ」 実践事例集
21 42 時間	地域福祉	事例を通し、地域福祉計画について学ぶ 相談援助教員テキスト 189～194
22 44 時間	連携	会議の案内文・メール文を作成する
23 46 時間	資料作成	会議で決まった内容について分かりやすく報告書を作成する
24 48 時間	電話対応	ロールプレイを行いながら姿の見えない相手に対しての対応の留意点について学ぶ
25 50 時間	アセスメント	面接場面のロールプレイを行いながら課題の整理をする
26 52 時間	父子家庭に対する支援	父子家庭の子供達への地域での支援 実践事例集 97～103
27 54 時間	受容	ロールプレイを通し受容することについて考える ソーシャルワーク演習ワークブック 210～213
28 56 時間	チームアプローチ	ロールプレイを通し連携について考える 「ケースカンファレンス」 演習ワークブック 89～93
29 58 時間	ホームレス	事例を元に貧困に対する支援、低所得者に対する支援について考える
30 60 時間	実習生に対する指導	事例を元に様々な実習生への対応を考えると共に、自分の実習生としての在り方を考える

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容
31 62 時間	実習の振り返り①	実習（8/1～9/30）を振り返りそれぞれの体験を元に学んだことを振り返り発表する
32 64 時間	実習の振り返り②	実習（8/1～9/31）を振り返りそれぞれの体験を元に学んだことを振り返り発表する
33 66 時間	実習の振り返り③	それぞれの体験場面における支援について考える
34 68 時間	災害時の相談援助	災害時のソーシャルワーク 中央法規 相談援助演習P298～302
35 70 時間	多様性の理解	LGBTの人々が抱える課題を元に多様性について理解する。
36 72 時間	地域福祉①	地域に必要とされている資源は何かを考える
37 74 時間	地域福祉②	資源を具体的に考え、住民向けにプレゼンをする準備をする
38 76 時間	地域福祉③	発表
39 78 時間	人材育成①	地域支援において必要な人材の育成について考える
40 80 時間	人材育成②	プレゼン準備
41 82 時間	人材育成③	プレゼン（2年生との合同授業）
42 84 時間	人材育成④	プレゼン（2年生との合同授業）
43 86 時間	用語の整理①	各自割り当てられた科目の中で重要な用語について分かりやすくまとめる
44 88 時間	用語の整理②	各自割り当てられた科目の中で重要な用語について分かりやすくまとめる（発表）
45 90 時間	振り返り	2年間の振り返り 「私の樹」

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ソーシャルワーク実習 指導	教員名 大富和弘 ・佐藤雅子		
科目時間数 : 30時間 15限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習		
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択	配当学年 : 2年	開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期・後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助実習の意義について理解する。 ・ 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 ・ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・ 実際の実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 ・ 現場体験学習及び見学実習 ・ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ・ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 <p>【授業における達成課題】</p> <p>当該科目について、社会福祉士として必要な知識・技術・価値を習得する。</p>			
	使用教材	出版社	
新社会福祉士養成講座	相談援助実習	中央法規出版	
【使用教室】			
①. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】 上記を勘案して得点化し、A (80点以上)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満)、D (60点未満：不合格) の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			

科目名 ソーシャルワーク実習指導（2年次）		科目時間総数 30時間	15限	教員名 大富和弘・佐藤雅子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標		
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	実習概要を理解する。		
2限 3時間 4時間	施設見学	現場の環境や対人援助の実際について印象をつかむ。		
3限 5時間 6時間	実習報告会	3年生の実習報告から、相談援助実習においてどのようなことを経験するのかを理解する。		
4限 7時間 8時間				
5限 9時間 10時間	テキスト「序章」 専門職養成と実習の関 係の明確化	専門職養成と実習の関係の明確化について理解する。		
6限 11時間 12時間	テキスト「1章」 相談援助実習の位置づ けと内容	相談援助実習の位置づけと内容について理解する。		
7限 13時間 14時間	テキスト「2章」 ソーシャルワーカーと しての社会福祉士	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について理解する。		
8限 15時間 16時間	テキスト「3章」 実習の場と形態	実習の場と形態について理解する。		
9限 17時間 18時間	テキスト「4章」 契約の中にある実習	契約の中にある実習について理解する。		
10限 19時間 20時間	テキスト「5章」 実習スーパービジョン の理解	実習スーパービジョンについて理解する。		
11限 21時間 22時間	テキスト「6章」 実習評価の理解	実習評価について理解する。		
12限 23時間 24時間	テキスト「7章」 実習先機関・施設、地 域の理解	実習先機関・施設、地域について理解する。 自分の実習先に関する事前学習を進める。		
13限 25時間 26時間	テキスト「8章」 実習先機関・施設、地 域の利用者理解と援助 方法	実習先機関・施設、地域の利用者理解と援助方法について理解する。		
14限 27時間 28時間				
15限 29時間 30時間	テキスト「9章」 相談援助実習の仕組み	相談援助実習の仕組みについて理解する。		

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	ソーシャルワーク実習 指導	教員名	大富和弘 ・佐藤雅子
		説明（相談援	
科目時間数：	60時間（30限）	授業の種類：	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別：	必修・選択	配当学年：	3年
		開講時期：	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 事前予習 題として実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ・ ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 ・ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・ 実際の実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的理解 ・ 現場体験学習及び見学実習 ・ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ・ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 ・ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・ 巡回指導 ・ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・ 実習の評価全体総括会 <p>【授業における達成課題】 事前予習 題として実習</p> <p>当該科目について、社会福祉士として必要な知識・技術・価値を習得する。</p>			
	使用教材	出版社	
新社会福祉士養成講座	ソーシャルワーク実習	中央法規出版	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室		
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他（ ）		
【備考】	上記を勘案して得点化し、A（80点以上）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満：不合格）の4段階で評価する。		
【担当教員の実務経験の有無】	有 ・ 無		

科目名		科目時間総数	教員名
ソーシャルワーク実習指導		60時間 (30限)	大富和弘・佐藤雅子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・実習概要の説明（相談援助マニュアルの説明） ・事前訪問の準備（個人票の作成、連絡先・経路等の確認） 	
	事前学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題として実習先の運営組織や法制度、地域特性、利用者、関連業務等について理解する。 	
2限 3時間 4時間	テキスト「10、11章」	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題として実習先の運営組織や法制度、地域特性、利用者、関連業務等について理解する。 	
	事前学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題として実習先の運営組織や法制度、地域特性、利用者、関連業務等について理解する。 	
3限 5時間 6時間	ソーシャルワーク実習計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習計画書のなかで実習テーマ・達成課題を設定する。 	
	テキスト「10、11章」		
4限 7時間 8時間	事前学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題として実習先の運営組織や法制度、地域特性、利用者、関連業務等について理解する。 	
	ソーシャルワーク実習計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習計画書のなかで実習テーマ・達成課題を設定する。 	
5限 9時間 10時間 11時間	テキスト「12章・1～2節」	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践「基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成」「利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成」について理解する。 	
	事前訪問（1回目）	実習先に最初の事前訪問を行う。	
6限 12時間 13時間	事前学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題として実習先の運営組織や法制度、地域特性、利用者、関連業務等について理解する。 	
	ソーシャルワーク実習計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習計画書のなかで実習テーマ・達成課題を設定する。 	
7限 14時間 15時間	テキスト「12章・3～5節」	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者や家族との援助関係の形成」「利用者や家族への権利擁護、支援と評価」「チームアプローチの実際」について理解する。 	
	事前学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題として実習先の運営組織や法制度、地域特性、利用者、関連業務等について理解する。 	
8限 16時間 17時間	ソーシャルワーク実習計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習計画書のなかで実習テーマ・達成課題を設定する。 	
	個別スーパービジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・個別スーパービジョンを実施する。 	
9限 18時間 19時間	事前学習課題完成	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題を完成させる。 ・ソーシャルワーク実習計画書を完成させる。 	
	ソーシャルワーク実習計画書完成	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習計画書、事前学習課題を発送する。 	
10限 20時間 21時間	テキスト「12章・6節」	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解「守秘義務に関する理解・個人情報保護法の理解」について理解する。 	
	22時間		
11限 23時間 24時間	テキスト「12章・7～9節」	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解「実習先機関・施設の経営やサービスの管理運営の理解」 	
	25時間	<ul style="list-style-type: none"> 「地域社会の一員として実習先機関・施設の理解」「実習で何をどこまで経験するのか」について理解する。 	
12限 26時間 27時間	事前訪問（2回目）準備	<ul style="list-style-type: none"> ・自己診断シート記入、事前訪問の準備。 	
	28時間		
13限 29時間 30時間	テキスト「13章」	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録について理解する。 ・実習日誌配布 ・記録の練習 	
	事前訪問（2回目）準備		
14限	事前訪問（2回目）	実習直前の事前訪問を行う。	

科目名		科目時間総数	教員名
ソーシャルワーク実習指導		60時間 (30限)	大富和弘・佐藤雅子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標
16	31時間	事前訪問 (2回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習概要の説明 (相談援助マニュアルの説明) ・事前訪問の準備 (個人票の作成、連絡先・経路等の確認)
	32時間	テキスト「14～15章」	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的マナーや実習生としての基本的ルールを確認する。
17	33時間	個別スーパービジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・実習評価について説明 (自己評価表の記入の仕方) ・自己診断シートを受けての個別スーパービジョン①
	34時間		
18	35時間	実習前最終確認	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導・帰校日に関する説明。 ・実習中の事故・緊急時の対応の確認。 ・その他実習前最終確認 ・自己診断シートを受けての個別スーパービジョン②
	36時間	個別スーパービジョン	
19	37時間	帰校日	<ul style="list-style-type: none"> ・実習経過、進捗の確認 ・記録物の確認。 ・個別スーパービジョン
	38時間		
20	39時間		
	40時間		
21	41時間	実習後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り (グループワーク) ・実習報告書の作成
	42時間	テキスト「16～17章」	
22	43時間	実習後指導	実習報告書の作成
	44時間		
23	45時間		
	46時間		
24	47時間	実習後指導	実習報告書の作成
	48時間		
25	49時間	事後訪問	実習先に事後訪問を行う。
	50時間		
26	51時間	実習後指導	実習報告書の作成
	52時間		
27	53時間		
	54時間		
28	55時間	実習後指導	実習報告書の作成
	56時間		
29	57時間	実習報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録について理解する。 ・実習日誌配布 ・記録の練習
	58時間		
30	59時間	テキスト「終章」	求められる社会福祉士について理解する。
	60時間		

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ソーシャルワーク実習	教員名 大富和弘・ 佐藤雅子	
科目時間数 : 240時間 (120 限)	授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ <u>実習</u>	
必修・選択の別 : <u>必修</u> ・選択	配当学年 : 3年 開講時期 : 前期・後期・ <u>集中</u>	
<p>【授業の目的・ねらい】 相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術に関する基本知識について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職と連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・基本的コミュニケーション ・利用者支援 ・連携とチームアプローチ ・社会福祉専門職の理解 ・運営管理・地域交流と連携</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目について、社会福祉士が行う相談援助に必要な知識と技術を習得する</p>		
	使用教材	出版社
	相談援助実習	中央法規出版
<p>【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 <u>7. その他</u> (実習施設)</p>		
<p>【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 <u>6. その他</u> (実習先の評価・実習日誌)</p>		
<p>【備考】 評価について：実習先の評価を基にA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>		
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無</p>		
<p>【内容】 福祉施設での現場経験有り</p>		

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	国語表現法	教員名	土川律子
科目時間数 :	30時間	15限	授業の種類 : <input checked="" type="radio"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	<input checked="" type="radio"/> 必修 ・ 選択	配当学年 :	2年 開講時期 : <input checked="" type="radio"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 記録・レポート等、倫理的文章を書くための基礎的な事項を学び、事柄をわかりやすく、正確かつ的確に伝える記述する記述力の習得を目標とする。記録文における文章全体の構成、また細部における客観的、具体的記述力を身に付ける</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 本授業では、論理的文章の記述力を高めることを目標とする。自己の表現力を確認することから始め、基礎的事項を学び、文全体の構成、事実と意見を書き分ける等、わかりやすく論理的な文章の方現法を身に付ける。要約、意見文の記述により基礎力を養い、記録文を作る。</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目について、社会福祉専門職として福祉実践に必要な記述のしかたを完成する</p>			
	使用教材	出版社	
【使用教室】			
<input checked="" type="radio"/> 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
<input checked="" type="radio"/> 1. 筆記試験	2. レポート	<input checked="" type="radio"/> 3. 出席	<input checked="" type="radio"/> 4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
評価について：筆記試験、授業態度等を勘案し、A(80点以上)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下：不合格)で評価します			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無			
【内容】			

科目名		科目時間総数	教員名
国語表現法		30時間	土川律子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限 1時間 2時間	話し言葉	「話し言葉」「書き言葉」の基本を聴き取り表記できる	
	主語	「文の原則」主語と述語の関係等、獄都語句の関係を知り、要約できる	
2限 3時間 4時間	文の組み立て	「文の組み立て」論理的な文章の接続と修飾関係を把握し、記述できる	
	文のつながりから	「文のつながり方」「視点」客観的記述における視点の置き方を把握する	
3限 5時間 6時間	要約	「要約」前回までの内容確認のため、課題による「要約」を完成する	
	言葉の順序	「言葉の順序」を把握し、わかりやすい文章を構成できる	
4限 7時間 8時間	文章構成	「定義・分類」も表現を学び、論理的な文章を構成できる	
	対比	「対比」対比の表現を知り、事実と意見の書き分けを意識し、記述できる	
5限 9時間 10時間	引用	「引用」説明に必要な「引用」を用い、記述できる	
	意見文	「意見文」前回までの内容を確認し、課題による「意見文」を完成する	
6限 11時間 12時間	列挙	「列挙」列挙の表現を学び、事例・論証の表現が可能になる	
	因果関係	「因果関係」因果関係の表現に留意し表現できる	
7限 13時間 14時間	敬語	「敬語表現」敬語の基本的な表現ができる	
	小論文	「小論文を書く」論説文を用い、事実・事例・意見・論証を構成できる	
8限 15時間	〃	「小論文を書く」論説文を課題とし、意見論述を完成する	
9	本学スクーリング	本学スクーリング	
~			
15			
限 30時間			

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 情報処理入門Ⅱ	教員名 梅木 美喜子		
科目時間数 : 30時間	15限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 : 2年	開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 コンピュータネットワークや情報セキュリティ、情報発信に必要な基礎技術の習得</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・コンピュータネットワーク ・情報セキュリティ ・オフィススイートの利用方法</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目について、社会福祉専門職として福祉実践に必要な知識を習得する</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	Word2019&Excel2019&Powerpoint2019	FOM出版	
教員用	EXCEL 2019 基礎	〃	
	EXCEL 2019 ドリル	〃	
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 <input checked="" type="checkbox"/> 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート <input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 実技試験 6. その他 ()</p>			
<p>【備考】</p> <p>評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>			
<p>【内容】</p>			

科目名		科目時間総数	教員名
情報処理入門Ⅱ		30時間	梅木 美喜子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間	データの入力	Excelの概要、データの種類、演算記号	
2時間	〃	データの種類、演算記号、基本操作	
2限 3時間	〃	Excelの基本操作	
4時間	〃	〃	
3限 5時間	表の作成	関数（オートΣ）、罫線の設定、表示形式、配置、書式の設定	
6時間	〃	〃	
4限 7時間	〃	〃	
8時間	〃	〃	
5限 9時間	数式の入力	関数オートΣ（MAX、MIN……）、相対・絶対参照	
10時間	〃	〃	
6限 11時間	〃	〃	
12時間	〃	関数（phonetic関数）、ふりがなの設定、ユーザ定義の表示形式	
7限 13時間	〃	〃	
14時間	〃	関数・絶対参照・各種設定の復習	
8限 15時間	〃	〃	
1日目	Excel 表の印刷	ページ設定、印刷様式の設定、改ページ箇所の変更……	
	〃	〃	
	グラフの作成	グラフ機能の概要、円グラフと棒グラフの作成……	
	〃	〃	
	〃	複合グラフの作成、グラフィックの活用……	
	〃	〃	
2日目	データベース	並べ替えと抽出	
	〃	〃	
	ピボットテーブル	ピボットテーブルとピボットグラフの作成	
	WordとExcel 差し込み印刷	差し込み印刷の設定と印刷	
	〃	〃	
	〃	ピボットテーブルとピボットグラフの作成	
30時間	確認試験	差し込み印刷の設定と印刷	
		実技的要素の確認	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	IT応用	教員名	松森良子
科目時間数 :	30時間	15限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実習
必修・選択の別 :	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	<input checked="" type="checkbox"/> 前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 パソコンの実習を通して、情報を適切に活用するための技能を養い、それを実践できるよう学習する。 情報社会のルールやセキュリティの知識を身につけ、他科目で学習したOfficeソフトを使い、情報収集・蓄積・分析・表現ができるようになる。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・情報モラルとセキュリティ ・情報収集・蓄積・分析・表現</p> <p>【授業における達成課題】 情報社会のルールやセキュリティの知識を身につけることができる 他科目で学習したOfficeツールを活用し、情報分析やプレゼンができる</p>			
	使用教材	出版社	
	情報リテラシー入門編 Windows10/Office2019対応	FOM出版	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. <input checked="" type="checkbox"/> 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	<input checked="" type="checkbox"/> 2. レポート	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
出席10%、授業態度10%、レポート40%、発表40%			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
【内容】 2005年～現在 盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 講師 所有資格：初級システムアドミニストレータ、中学校教員免許など			

科目名		IT応用		科目時間総数	30時間 (15 限)	教員名	松森 良子
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と達成目標			
1	限	1時間	オリエンテーション 情報モラル& 情報セキュリティ	授業概要 個人情報の適切な取り扱いができる デジタル時代の著作権を理解することができる			
		2時間					
2	限	3時間	↓	ネット社会に潜む危険と対策を理解することができる Webコミュニケーションの特色や注意点を理解することができる モバイル機器の活用と管理を理解することができる			
		4時間					
3	限	5時間	↓				
		6時間					
4	限	7時間	表計算活用 ↓	情報分析、整理にEXCELを活用することができる ↓			
		8時間					
5	限	9時間	文書作成 ↓	WORDを活用し、新聞作成ができる ↓			
		10時間					
6	限	11時間	↓	↓			
		12時間					
7	限	13時間	ビジュアル表現 ↓	図解、表、グラフ、写真、イラスト等を使った表現方法を理解することができる 色と図形の効果を理解することができる プレゼンテーションの要点、形式、流れを理解することができる ↓			
		14時間					

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と達成目標	
科目名		科目時間総数 30時間 (15限)		教員名 松森 良子	
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と達成目標	
8 限	15時間	<u>ビジュアル表現</u>		PowerPointを使い、プレゼンテーション（個人発表）ができる	
	16時間				
9 限	17時間	<u>ビジュアル表現</u>		グループディスカッションとスライド作成できる	
	18時間			PowerPointを使い、プレゼンテーション（グループ発表）ができる	
10 限	19時間				
	20時間				
11 限	21時間				
	22時間				
12 限	23時間				
	24時間				
13 限	25時間				
	26時間				
14 限	27時間				
	28時間				
15 限	29時間	<u>フィードバック</u>		グループプレゼンを振り返り、コメント評価を受け、スキル向上へ繋げることができる	
	30時間				

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ビジネス実務演習	教員名 厨川久美子
科目時間数 : 30時間 15限	授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 2年 開講時期 : 前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 社会人、職業人として身に付けておきたい常識や基本知識・技能を身に付けるための学習とする。学習を進めるにあたり秘書技能検定受験対策を基本に置くが、このことにより、仕事における基本知識や技術の総合的な理解とともに、現場で求められる状況判断など実践に即した応用力を身に付けることも目的とする</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ビジネスパーソンとしての自覚・身だしなみ・あいさつ・言葉遣い、ビジネス文書、訪問のマナー、電話対応のマナー、接遇対応、郵便業務、交際業務などのビジネス全般にかかわる基礎知識と技能を習得する</p> <p>【授業における達成課題】 社会福祉専門職として、信頼・安心を提供し得る考え方や行動について理解し、実践することができる</p>	
	使用教材
出版社	
学生用	秘書検定 ケーススタディで学ぶ3級集中講義 秘書検定3級 新クリアテスト 秘書検定3級 実問題集
	早稲田教育出版 早稲田教育出版 早稲田教育出版
【使用教室】	
1. HR	2. 介護実習室
3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室
7. その他 ()	
【評価方法】	
1. 筆記試験	2. レポート
3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()
【備考】	
評価について：筆記試験、及び出席率、授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。	
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無	
【内容】 日本産業訓練協会接遇訓練指導者・日本秘書教育学会秘書教育担当者として、学校や企業、団体を対象とした接遇セミナー等の講師活動	

科目名		科目時間総数	教員名
ビジネス実務演習		30時間	厨川久美子
教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容	
1限	1時間	オリエンテーション	学習の目標、合格に向けたスケジュール、並びにテキストの活用の仕方等、学習のすすめ方について理解する
	2時間		
2限	3時間	必要とされる資質	仕事を行うについて備えるべき要件、要求される人柄について学ぶ
	4時間	職務知識	上司の機能と補佐役としての仕事の機能について学ぶ
3限	5時間	一般知識	社会常識並びに株式会社について初歩的な知識を習得する
	6時間	マナー・接遇	電話対応のマナーと基本対応について学ぶ
7時間			慶事と弔事への対応、贈答の習わしなど、交際業務について学ぶ
4限	8時間		接遇の基本と来客対応の要領とマナーについて学ぶ
	9時間		総合学習
5限	10時間	〃	検定対策として、過去問題で知識と技能について確認し学習する
	6限	11時間	〃
12時間		〃	〃
7限	13時間	〃	〃
	14時間	〃	〃
8限	15時間		ビジネス文書における社内文書と伝言メモについて習得する
	16時間		〃
9限	17時間		ビジネス文書における社外文書について習得する
	18時間		〃
10限	19時間		グラフの作り方について学ぶ
	20時間		〃
11限	21時間	社会人に必要とされる技能	郵便に関する一般知識を習得する
	22時間		〃
12限	23時間		郵便物の受信・発信における基本業務を学ぶ
	24時間		〃
13限	25時間		〃
	26時間		〃
14限	27時間		資材管理、日程管理並びにオフィス管理の基本について学ぶ
	28時間		〃
15限	29時間		〃
	30時間		〃

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 福祉住環境コーディネーター	教員名 植田 優
科目時間数 : 25時間	12.5限 授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 : 3年 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 高齢者や障がい者の身体機能や生活状況い配慮した福祉住環境の整備について理解する</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 障がい者や高齢者のニーズに対応できる住宅改修の検討や、福祉用具等の利用について学ぶ</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目について社会福祉専門職として福祉実践に必要な知識・技術を習得する</p>	
	使用教材
	出版社
	福祉住環境コーディネーター検定試験 東京商工会議所
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室</p> <p>5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度</p> <p>5. 実技試験 6. その他 ()</p>	
<p>【備考】</p> <p>評価について： 試験結果、及び出席率、授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>	
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>	
<p>【内容】 福祉施設での現場経験あり</p>	

科目名		科目時間総数	教員名	
福祉住環境コーディネータ		25時間	12.5限 植田 優	
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容		
1限 1時間	オリエンテーション			
2時間	暮らしやすい生活環境をめざして	少子高齢化社会と共生社会の道		
3時間	暮らしやすい生活環境をめざして	福祉住環境整備の重要性・必要性		
4時間		在宅生活の維持とケアサービス		
5時間	健康と自立	高齢化の健康と自立		
6時間		障がい者が生活の不自由を克服する道		
7時間	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリーとユニバーサルデザイン		
8時間		生活を支える用具		
9時間		住まいの整備のための基本技術		
10時間		生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい		
11時間		ライフスタイルの多様化と住まい		
12時間		安心できる住生活		
13時間		安心して暮らせるまちづくり		
14時間		地域で取り組む福祉のまちづくりの実践事例		
15時間		検定試験対策	過去問題	
16時間				
17時間				
18時間				
19時間				
20時間				
21時間				
22時間	模擬試験			
23時間				
24時間				
12.5限 25時間				

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	ボランティア実践	教員名	竹内愛美・大冨和弘
科目時間数 :	36時間	18限	授業の種類 :
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 盛岡市社会福祉協議会との連携のもと、大慈寺地区における居場所づくりの立ち上げについて、学生が主体的に企画・運営する。地域で暮らす高齢者の声を拾い上げる等の地域アセスメントを通し、地域で生活する高齢者のニーズの抽出から、一定の仮説のもと居場所づくりを検討し、実施後は、検証の機会を設け、比較ができるようになる。</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「地域福祉の理論と方法」の時間ともあわせて、月1回半日程度の地域活動を行っていく。活動の前後では計画検討、活動評価を行い、最終は活動報告会を実施する。</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目について、社会福祉専門職として福祉実践に必要な知識・技術を習得する。</p>			
	使用教材	出版社	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】 上記を勘案して得点化し、A (80点以上)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満)、D (60点未満：不合格) の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無			
【内容】 地域活動経験あり			

科目名		科目時間総数	教員名
ボランティア実践		36時間 18限	竹内愛美・大富和弘
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	・居場所の必要性を理解する ・理想の居場所（仮説）を考える	講話「なぜ、居場所づくりが必要か？」 ワークショップ「こんな居場所だったらいいな」	
2限 3時間 4時間	・地域を知る	大慈寺地区まちあるき 地域の高齢者の現況	
3限 5時間 6時間	地域で暮らす高齢者の暮らしぶりを知る（ニーズ把握）	町内在住の高齢者へのヒアリング	
4限 7時間 8時間	居場所プランの検討①	当事者ニーズの整理と課題抽出 理想の居場所（仮説）との比較	
5限 9時間 10時間	居場所プランの検討②	居場所プランの基本方針の話し合い 居場所プランの作成	
6限 11時間 12時間	居場所の実践1	実践活動①	
7限 13時間 14時間	居場所の実践2	実践活動②	
8限 15時間 16時間	活動評価と分析①	活動の振り返り	
9限 17時間 18時間	居場所プランの検討③	居場所プランの作成	
10限 19時間 20時間	居場所プランの検討④	居場所プランの作成	
11限 21時間 22時間	居場所の実践3	実践活動③	
12限 23時間 24時間	居場所の実践4	実践活動④	
13限 25時間 26時間	活動評価と分析②	活動の振り返り	
14限 27時間 28時間	活動評価と分析③	活動の振り返り	
15限 29時間 30時間	活動成果の可視化	報告会に向けて今年度の活動内容を資料化する。	
16限 31時間 32時間	活動成果の可視化	報告会に向けて今年度の活動内容を資料化する。	
17限 33時間 34時間			
18限 35時間 36時間	活動報告会	今年度の活動を報告する。	

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	レクリエーション実践	教員名	佐々木純子
科目時間数 :	30時間	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	3年
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 レクリエーションの必要性にふれ、福祉現場に求められる知識と技術を実践的に学ぶ</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 レクリエーションに関する知識や技術を具体的な実技を通して学ぶ</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目において社会福祉専門職に必要な知識・技術を習得する</p>			
	使用教材		出版社
<p>【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
<p>【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>			
<p>【備考】 評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無</p>			
<p>【内容】 福祉施設での現場経験あり</p>			

科目名		科目時間総数		教員名	
レクリエーション実践		30時間	15限	佐々木純子	
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容			
1限	1時間	コロナウイルス状況下でのレクリエーション	大勢が集まることができない状況下で気晴らしになるようなレクリエーションを検討し、企画書を作成する。		
	2時間		〃		
2限	3時間		〃		
	4時間		〃		
3限	5時間		〃		
	6時間		〃		
4限	7時間		〃		
	8時間		〃		
5限	9時間		〃		
	10時間		〃		
6限	11時		コロナウイルス状況下での運動	大勢が集まることができない状況下で気晴らしになるような運動や活動を検討し、実践を通じて学ぶ。	
	12時			〃	
7限	13時			〃	
	14時			〃	
8限	15時			〃	
	16時	〃			
9限	17時	〃			
	18時	〃			
10限	19時	〃			
	20時	〃			
11限	21時	コロナウイルス状況下におけるコミュニケーション		大勢が集まることができない状況下で人と人の接点を絶やさない方法を検討し、コミュニケーション実践を通じて学ぶ。	
	22時			〃	
12限	23時			〃	
	24時			〃	
13限	25時			〃	
	26時		〃		
14限	27時		〃		
	28時		〃		
15限	29時		〃		
	30時		〃		

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 手話（障害者コミュニケーション技法）	教員名 我妻信子	
科目時間数 ： 20時間 10限	授業の種類 ： <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 ： <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択	配当学年 ： 3年 開講時期 ： <input checked="" type="checkbox"/> 前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 基本的な手話の知識・技術を習得することにより、聴覚障がい者への理解を深める</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・聴覚障がい者の理解 ・手話の基礎知識について理解する</p> <p>【授業における達成課題】 当該科目について必要な知識と技術を習得する</p>		
	使用教材	出版社
	手話を学ぼう 手話ではなそう	社会福祉法人全国手話研修センター
<p>【使用教室】 <input checked="" type="checkbox"/> 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）</p>		
<p>【評価方法】 <input checked="" type="checkbox"/> 1. 筆記試験 2. レポート <input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 実技試験 6. その他（ ）</p>		
<p>【備考】 評価について：授業態度及び出席率を勘案し筆記試験、実技試験合わせてA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>		
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/>有 ・ 無</p>		
<p>【内容】 福祉現場での実務経験あり。</p>		

科目名		科目時間総数	教員名
手話		20時間 (10限)	我妻信子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1	1時間 2時間	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する
		聴覚障がい者のコミュニケーション方法	手話の基礎知識
2	3時間 4時間		あいさつの単語 伝え合ってみましょう
			名前を紹介 指文字
3	5時間 6時間		聴覚障がい者の生活 私の大切な家族 (ビデオ)
			家族紹介
4	7時間 8時間		家族紹介
			家族紹介 (グループ発表)
5	9時間 10時間	聴覚障がい者の生活	高橋先生 (聴覚障害の講師) 講義
			//
6	11時 12時	聴覚障がい者のコミュニケーション方法	数字 (誕生日・時間・お金・・・) いつ?いくら?いくつ?
			//
7	13時 14時		趣味・季節
			趣味 自己紹介の練習
8	15時 16時		仕事
			あなたの家を紹介しましょう (地名・住所・交通手段・・・)
9	17時 18時		//
			読み取りの練習 (ビデオ)
10	19時 20時		聴覚障害の基礎知識
			前期試験
11	限		作文作成 (テーマは自由) 手話に変換
			//
12	限		//
			//
13	限		//
			//
14	限		//
			//
15	限		//
		発表	手話で発表

授業計画表

社会福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 点字（障害者コミュニケーション技法）	教員名 杉本 則子				
科目時間数： 20時間	10限 授業の種類： <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習				
必修・選択の別： <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	担当学年： 3年 開講時期： 前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・集中				
【授業の目的・ねらい】 主に視覚障害者の障害の理解を通して、社会福祉士として必要な知識とコミュニケーションの方法を具体的に学習し、基礎的な方法を身に付ける。					
【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む					
【授業全体の内容の概要】 初めに視覚障害者の歴史や現在行われている視覚障害教育の基本を学ぶ。次の段階として視機能の役割、全盲と弱視の特徴から日常生活における不自由さをアイマスク等を着用し考察する。コミュニケーション手段としての点字や具体的な声かけの仕方を学習する。					
【授業における達成課題】 視覚障害を有している方（広くは高齢者も含むことを視野に入れる）の不自由さを理解し、具体的なコミュニケーションツールとしての点字の基礎やコミュニケーションのとり方を演習・ロールプレイ等を通して実践的に理解する。さらには、様々な障害を有している人（高齢者含む）にとって望ましい環境や社会を考えることができる力を養成する。					
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%; text-align: center;">使用教材</th> <th style="text-align: center;">出版社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">岩手の障がい児教育史～特殊教育から特別支援教育への発展～</td> <td style="padding: 5px;">岩手県障がい児教育史研究会編</td> </tr> </tbody> </table>	使用教材	出版社	岩手の障がい児教育史～特殊教育から特別支援教育への発展～	岩手県障がい児教育史研究会編
使用教材	出版社				
岩手の障がい児教育史～特殊教育から特別支援教育への発展～	岩手県障がい児教育史研究会編				
【使用教室】 ①. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）					
【評価方法】 筆記試験 60 点以上を合格とする * <input type="checkbox"/> 授業への傾聴態度や意見発表のあり方も付加する。 毎時間、前時間の内容をテスト確認し定着の状況を観察・確認する。					
【備考】 1. 小テスト、レポートの点数は60点以上を合格とする 2. 小テスト、レポートは教科書やノートなど持ち込みを許可する。 3. 授業態度は本校の成績評価基準で評価する					
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無					
【内容】 視覚支援学校での実務経験あり。					

科目名 点字（障害者コミュニケーション技法）		科目時間総数 20時間（10限）	教員名 杉本 則子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1 1時間 2時間	オリエンテーション 視覚障害者の歴史	古事記に記された障害者～江戸時代～現代における視覚障害者	
2 3時間 4時間	視覚障害者の教育 視機能について	障害理解：障害児・者への教育の始まり～現在の教育の在り方 視角の優位性、目の機能、目の構造と働きについて	
3 5時間 6時間	〃 視機能の発達	視覚情報処理の特徴について 全盲の特徴（人格形成への影響含む）	
4 7時間 8時間	〃 視覚障害の不自由さ	弱視の特徴：見え方の特徴 実体験（アイマスク着用）、ロールプレイを通して学習する	
5 9時間 10時間	〃 点字の基礎	視覚障害の実体験から環境や社会のあり方を考察する。 点字の成り立ち	
6 11時 12時	全盲者の講話 〃	障がい者の日常から生き方を通して、環境・社会を考える 〃	
7 13時 14時	点字の学習 〃	点字の書き表し方、法則性の特徴の知識 点字の書き表し方「五十音」の実演	
8 15時 16時	〃 〃	点字の書き表し方「分ち書き」 点字の書き表し方「数字」の実演	
9 17時 18時	〃 〃	点字の書き表し方「短い文を読む」 点字の書き表し方「短い文を書く」	
10 19時 20時	試験・まとめ 〃	全体をとおして点字の留意点を再確認する 〃	

＊□点字は繰り返して定着を図る。

＊□授業開始時には、前時の復習内容を筆記テストで確認する。

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	就職研究 I	教員名	大富和弘
科目時間数 :	4時間	2限	授業の種類 :
必修・選択の別 :	<input checked="" type="radio"/> 必修 ・ 選択	配当学年 :	2年
		開講時期 :	前期 ・ <input checked="" type="radio"/> 後期 ・ <input checked="" type="radio"/> 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 就職活動へ向けての流れを理解し、自分の就職、仕事について理解を進める</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・ 職場見学</p> <p>【授業における達成課題】 先輩の話を聞き、現段階での自分の課題について気づき、自らの行動へと繋げていくことができる</p>			
	使用教材	出版社	
<p>【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p> <p>【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p> <p>【備考】 評価について :</p> <p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p> <p>【内容】 福祉現場での実務経験。</p>			

科目名 就職研究 I		科目時間総数 2限 (4時間)	教員名 大富和弘
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1 限	講話	就職先が決まった先輩の話を聞きながら、就職活動に対するイメージを持つ	
		〃	
2 限	職場見学	福祉の現場の見学を行い、職場の理解を深める	
		振り返り	
	就職先検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人面談等をふまえながら、それぞれの就職について考える ・ 求人票の見方を理解する ・ 就職活動の流れについて理解する 	
4時間			

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	就職研究Ⅱ	教員名	大冨和弘
科目時間数 :	30時間	15限	授業の種類 :
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	3年
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動において自ら求人票を検索し、諸条件を勘案して具体的な進路選択ができるようになる。 ・履歴書作成や面接における基本的な事項を理解し、改めて自分の経歴や志望動機を整理した上で、実際の就職に結びつける。 <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>就職活動に関する講義および演習、セミナー受講、個別での職場見学等を通じて学ぶ。</p> <p>【授業における達成課題】</p> <p>自身の進路を明確にし、自分に適した就職先への内定を目指す。</p>			
	使用教材	出版社	
教員	教員準備教材を使用		
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室</p> <p>5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度</p> <p>5. 実技試験 6. その他 ()</p>			
<p>【備考】 上記を勘案して得点化し、A (80点以上)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満)、D (60点未満：不合格) の4段階で評価する。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無</p>			
<p>【内容】 社会福祉士としての実務経験</p>			

科目名 就職研究Ⅱ		科目時間総数 30時間 (15限)	教員名 大富和弘
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	就職活動の基本理解	履歴書の書き方、基本的な手続きやマナー等について学ぶ。	
2限 3時間 4時間	求人情報の取得方法	求人情報の取得、検索方法、求人票の見方について学ぶ。	
3限 5時間 6時間	自己分析ワーク	履歴書作成と面接に向けた自己分析ワークを行う。	
4限 7時間 8時間			
5限 9時間 10時間	志望動機の整理	仮履歴書で自分の経歴や志望動機を整理する。	
6限 11時間 12時間	面接練習	想定される質問内容に対して自分の応答を考える。 面接マナーを確認する。	
7限 13時間 14時間		【模擬面接】 試験官に対して自分の思いや考えを整理して伝えることができる。	
8限 15時間 16時間			
9限 17時間 18時間		職場訪問 就職セミナー参加	様々な求人情報等を吟味したうえで、自分が気になる求人先に個々に連絡をとり、見学することで職場の雰囲気を理解し、自分の判断に役立てる。就職セミナー等へ参加する。
10限 19時間 20時間			
11限 21時間 22時間			
12限 23時間 24時間			
13限 25時間 26時間			
14限 27時間 28時間			
15限 29時間 30時間			

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 国家試験研究	教員名 佐藤雅子	
科目時間数 : 25時間 (12.5 限)	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択	配当学年 : 3年 開講時期 : 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 社会福祉士国家試験の概要を理解し、出題傾向のポイントなどをおさえ、自己学習の流れを確立させる</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 初回事業で学生が主体的に本授業で対策を行う科目（5科目程度）を決定する。 2回目以降は、学生が教材を使用しながら演習形式で実際の国家試験過去問題で取り組み、教員が解説を行う。</p> <p>【授業における達成課題】 過去問題への取り組みにより、国家試験の概要について理解し、卒業後の合格をめざして自己学習が進められるようにする。</p>		
	使用教材	出版社
	社会福祉士の合格教科書	株式会社テコム
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>		
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート <input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>		
<p>【備考】</p>		
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>		
<p>【内容】 社会福祉士としての実務経験</p>		

科目名		科目時間総数	教員名
国家試験研究		25時間 (12.5限)	佐藤雅子
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容
1 限	1時間 2時間	社会福祉士国家試験の概要	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士試験の受験状況 試験科目と合格基準、合格者データ 実際の試験問題の確認と全体的な出題傾向
2 限	3時間 4時間	過去問題演習	過去問題演習【1科目目】と解説
3 限	5時間 6時間		
4 限	7時間 8時間		
5 限	9時間 10時間		
6 限	11時間 12時間	過去問題演習【2科目目】と解説	
7 限	13時間 14時間		
8 限	15時間 16時間		
9 限	17時間 18時間		
10 限	19時間 20時間	過去問題演習【3科目目】と解説	
11 限	21時間 22時間		
12 限	23時間 24時間		
13 限	25時間		
		まとめ	社会福祉士国家試験に向けた学習方法

授業計画表

社会福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 LHR	教員名 竹内愛美 大富和弘	
科目時間数 : 30時間 15限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 : 2～3年 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ 集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 様々な行事の企画、実践を通しクラスの間人間関係を構築する。他学科の学生との交流を通し、他職種連携の必要性について理解を深める</p> <p>【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①多様な対象者のニーズについて、適切に「聴く・伝える・つなげる」力を育む ②支援に関わる関係者とのネットワーク構築にむけて、積極的に行動し、自ら働きかける力を育む ③身近な地域生活における生活課題に関心を持ち、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・ 特別講義 ・ MIP s (他職種連携授業) ・ クラス行事の企画・準備・実施</p> <p>【授業における達成課題】 活動の体験を通し、企画力、実践力を身に付ける。様々な役割を担えるようになる</p>		
	使用教材	出版社
【使用教室】		
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	4. 視聴覚室
7. その他 ()		
【評価方法】		
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席
5. 実技試験	6. その他 ()	4. 授業態度
【備考】		
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無		
【内容】 教務経験あり。		

科目名 LHR		科目時間総数 30時間 (15限)	教員名 竹内愛美・大富和弘
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限 1時間 2時間		各種作業等適宜進める。	
2限 3時間 4時間			
3限 5時間 6時間	連絡事項		
4限 7時間 8時間	行事等準備		
5限 9時間 10時間			
6限 11時間 12時間			
7限 13時間 14時間			
8限 15時間 16時間			
9限 17時間 18時間			
10限 19時間 20時間			
11限 21時間 22時間			
12限 23時間 24時間			
13限 25時間 26時間			
14限 27時間 28時間			
15限 29時間 30時間			